

富岡町議会全員協議会日程

日時：令和４年９月７日

時間：原子力特別委員会終了後

富岡町役場 全員協議会室

開 議 午後１時００分

出席議員（９名）

議 長	高 橋 実 君	1 番	堀 本 典 明 君
2 番	佐 藤 教 宏 君	3 番	佐 藤 啓 憲 君
4 番	渡 辺 正 道 君	5 番	高 野 匠 美 君
6 番	遠 藤 一 善 君	7 番	安 藤 正 純 君
8 番	宇佐神 幸 一 君		

欠席議員（１名）

9 番 渡 辺 三 男 君

説明のための出席者

町 長	山 本 育 男 君
副 町 長	高 野 剛 君
副 町 長	竹 原 信 也 君
教 育 長	岩 崎 秀 一 君
参 事 兼 総 務 課 長	林 紀 夫 君
企 画 課 長	原 田 徳 仁 君
住 民 課 長	猪 狩 力 君
健康づくり課長	遠 藤 博 生 君
産業振興課長	坂 本 隆 広 君
都市整備課長	志 賀 智 秀 君
教育総務課長	猪 狩 直 恵 君
生涯学習課長	佐 藤 邦 春 君
企画課課長補佐 兼広報広聴係長	畠 山 信 也 君

環境省福島地方
環境事務所環境
再生・廃棄物生
対策部環境再生
課専門官

渡部裕子君

環境省福島地方
環境事務所環境
再生・廃棄物生
対策部廃棄物生
課課長

彦坂早紀君

環境省福島地方
環境事務所環境
再生・廃棄物生
対策部廃棄物生
課課長
施設管理室室長

西山卓也君

環境省福島地方
環境事務所環境
再生・廃棄物生
対策部最終処分
管理室室長

大友宏君

環境省福島地方
環境事務所環境
再生・廃棄物生
対策部仮置場場
課課長

澤邦之君

環境省福島地方
環境事務所中間
貯蔵部輸送課課
長

杉浩行君

環境省福島地方
環境事務所中間
貯蔵部輸送課課
長
専門官

矢吹清美君

環境省福島地方
環境事務所南支
富岡分室支所長

井原和彦君

<復興庁>

復興庁原子力
災害復興調査
企画官

田中康寛君

<復興庁 復興本庁 原子力災害復興班>

復興庁復興本庁
原子力災害復興
班参事官

西村学君

復興庁復興本庁
原子力災害復興
班参事官補佐

最上祥成君

復興庁復興本庁
原子力災害復興
班参事官補佐

坂 本 充 君

<復興庁 福島復興局>

復興庁福島復興
局参事官

深 澤 東 和 君

<環境省 環境再生・資源循環局 環境再生事業担当参事官室>

環境省環境再生
・資源循環局
環境再生事業
担当参事官補佐

鈴 木 祐 介 君

環境省環境再生
・資源循環局
環境再生事業
担当参事官室
除染活動推進員

飯 塚 嘉 弘 君

<林野庁 森林整備部 研究指導課>

林野庁森林整備
部研究指導課
放射性物質影響
評価官

鈴 木 明 君

林野庁森林整備
部研究指導課
森林除染技術
指導班課長補佐

山 下 泰 宏 君

付議事件

1. 除染解体工事及び中間貯蔵施設への輸送並びに特定廃棄物埋立処分事業の状況について
2. 里山再生事業について
3. 帰還困難区域の再生に向けた取組について
4. 東日本大震災慰霊碑の建立について
5. 放課後児童クラブ施設整備事業について

その他

開 会 （午後 1 時 0 0 分）

○議長（高橋 実君） では、ただいまより富岡町議会全員協議会を開会いたします。

ただいまの出席議員は 9 名です。欠席議員は 1 名であります。説明のための出席者はお手元に配付した名簿のとおり、内閣府原子力災害現地対策本部、師田副本部長をはじめ環境省福島地方環境事務所、関谷所長及び各担当者の皆さん並びに町長、両副町長、教育長、そのほか関係課長であります。職務のための出席者は、議会事務局職員であります。

付議事件に入る前に、町長より全員協議会招集内容の説明とご挨拶をいただきたいと思います。

町長。

○町長（山本育男君） 議員の皆様には午前に引き続き全員協議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、内閣府原子力災害現地対策本部の師田副本部長、環境省福島地方環境事務所の関谷所長をはじめ関係機関の皆様にもお忙しい中ご出席をいただき、厚く御礼を申し上げます。

本日の全員協議会の案件は、環境省から除染解体工事及び中間貯蔵施設への輸送並びに特定廃棄物埋立処分事業の状況について、復興庁から里山再生事業についての説明を受けるとともに、町からは帰還困難区域全域の再生に向けた本庁の復興創生への取組に関する説明といたしまして、帰還困難区域の再生に向けた取組についての 1 件、東日本大震災慰霊碑建立について、放課後児童クラブ施設整備事業についての 2 件であります。それぞれの案件につきまして、詳しくは担当課長より説明させますが、環境省及び復興庁からの説明案件も含め、本町の復興再生を進める上で重要な案件でありますので、議員の皆様の忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げます。併せて挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） ありがとうございます。

次に、内閣府の師田副本部長、環境省の関谷所長からそれぞれご挨拶をいただきたいと思います。なお、発言はお手元のマイクのボタンを押してからお願いいたします。

初めに、師田副本部長よりお願いします。

師田副本部長。

○内閣府原子力災害現地対策本部副本部長（師田晃彦君） ご紹介いただきました原子力災害現地対策本部の副本部長の師田でございます。本年の 7 月 1 日に着任をいたしましたけれども、昨年の 7 月までは復興庁の福島復興局で富岡町を担当させていただいておりました。2020 年の夜ノ森駅周辺の避難指示の先行解除などの際にもこの全員協議会に参加させていただいたりということもございましたし、議員の皆様からいろいろご意見、ご指導いただきながら取り組んでまいりました。本日もこのような場にお招きいただきましたことを大変光栄に思っております。

まず、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故から 11 年と 5 か月が経過をしても、なお避難生活が継続し、多大なるご不便をおかけしているということにつきまして改めておわびを申し上げます。特定復興再生拠点区域では、4 月の 11 日から準備宿泊が開始されていると伺っておりま

して、本日も避難指示解除に向けた取組の進捗についてのご説明があると伺ってございます。内閣府としまして、引き続き住民の皆様が安心してご帰還いただける環境整備に取り組んでまいります。議員の皆様からもご意見をいただきながら、住民の皆様のスムーズなご帰還に向けまして、一歩でも二歩でも前に進めるように取り組んでまいりますので、引き続きご指導よろしくお願いいたします。本日はどうぞよろしくお願いします。

○議長（高橋 実君） ありがとうございます。

次に、関谷所長よりお願いします。

関谷所長。

○環境省福島地方環境事務所所長（関谷毅史君） 同じく7月1日付で環境省福島地方環境事務所長に着任いたしました関谷でございます。よろしくお願いいたします。

私は発災の後、2013年から15年にかけて今の事務所の前身の事務所長を務めておりまして、当時も富岡町の皆様方大変ご不便をおかけしている中、除染等の環境省事業に多大なるご協力をいただいたこと、私は深く胸に刻んでおるところでございます。それから、事故から11年5か月もたった今になってもまだご不便をおかけしている、また避難指示の下で大変な思いをされている方々がいらっしゃるということに関しまして、環境省からも改めておわびを申し上げたいと思います。

本日この場にお招きいただきまして、環境省が進めております環境再生事業、除染解体工事、そして中間貯蔵施設への輸送、それぞれの状況、それからお借りしております仮置場の原状回復の状況、それから特定廃棄物埋立処分事業の進捗状況等に関しましてご報告する機会をいただきましたことありがとうございます。富岡町では、拠点区域の準備宿泊もこの春から始まっているという中でこれらの事業を進めておるわけでございますので、町民の方々に工事によってご心配をおかけすることのないよう、安全第一で事務所としても改めて気を引き締めて進めてまいりたいと思っております。

この後それぞれ担当から事業の状況をご報告申し上げますけれども、私ども事務所でも全力を挙げましてこれから避難指示解除に向けての取組を改めて進めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） ありがとうございます。

次に、各自名簿順に所属と名前をみの自己紹介をお願いします。

初めに、内閣府、次に環境省、復興庁の順にお願いします。

黒田さん。

○内閣府原子力災害現地対策本部総括班長（黒田浩司君） 原子力災害現地対策本部総括班長の黒田でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 今泉さん。

○内閣府原子力被災者生活支援チーム企画官（今泉 亮君） 支援チームの今泉でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 成田さん。

○環境省福島地方環境事務所次長（成田浩司君） 環境省福島地方環境事務所次長の成田でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 中村さん。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部環境再生課課長（中村 祥君） 環境省福島事務所環境再生課長の中村でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 篠崎さん。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部環境再生課専門官（篠崎さえか君） 環境再生課の篠崎です。本日はよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 渡部さん。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部環境再生課専門官（渡部裕子君） 環境省環境再生課、渡部です。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 彦坂さん。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部廃棄物対策課課長（彦坂早紀君） 廃棄物対策課長の彦坂です。本日はよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 西山さん。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部廃棄物対策課廃棄物処理施設運営管理室室長（西山卓也君） 福島地方環境事務所廃棄物処理施設運営管理室長の西山です。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 大友さん。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部廃棄物対策課最終処分場管理室室長（大友 宏君） 最終処分管理室長の大友宏です。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 澤さん。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部仮置場対策課課長（澤 邦之君） 環境省仮置場対策課長の澤と申します。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 杉さん。

○環境省福島地方環境事務所中間貯蔵部輸送課課長（杉 浩行君） 輸送課長をしております杉と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 矢吹さん。

○環境省福島地方環境事務所中間貯蔵部輸送課専門官（矢吹清美君） 中間貯蔵部輸送課の矢吹と申します。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 井原さん。

○環境省福島地方環境事務所県中・県南支所富岡分室支所長（井原和彦君） 富岡分室支所長、井原

でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 田中さん。

○復興庁原子力災害復興班企画調査官（田中康寛君） 復興庁の原子力災害復興班の田中です。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） ありがとうございます。

それでは、付議事件に入ります。付議事件１、除染解体工事及び中間貯蔵施設への輸送並びに特定廃棄物埋立処分事業の状況についての説明をお願いします。説明は着席のままで結構です。

先に環境再生課。

中村課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部環境再生課課長（中村 祥君） ありがとうございます。ご指摘を踏まえて、着席のままご説明させていただきます。

お手元の資料、除染解体工事及び中間貯蔵施設への輸送並びに特定廃棄物埋立処分事業の状況についてに基づきご説明申し上げます。

１ページおめくりいただきまして、除染解体工事の状況についてでございます。次のページ、右肩に１ページと書いている資料でございます特定復興再生拠点区域の除染・解体のスケジュールをお示ししてございます。除染につきましては、引き続き特定復興再生拠点内の除染を最優先して進めてまいります。事後モニタリングにつきましては、令和２年度は先行エリアを実施、令和３年度、４年度は全域を対象に実施しておりますところです。また、各除染作業完了後にも併せて線量測定を行っておりますところです。ホットスポットなどがありました際には、除染方法を検討の上、線量低減を実施してまいります。外縁の除染につきましては、除染同意取得状況を踏まえまして、面拠点外縁及び松ノ前墓地外縁から東に向けてある程度のまとまりを持った地域ごとに順次除染を進めてまいりたいと存じます。

１ページおめくりいただきまして、右肩２ページと書いている資料でございます。除染等の状況につきまして、解体につきましては令和４年８月末時点におきまして解体申請件数８７２件、そのうち７５６件の解体が完了してございます。続きまして、除染でございますけれども、令和４年８月末時点におきまして、避難指示解除済み区域においては線量測定の結果などを踏まえ、個々のホットスポット解消に向けて取り組んでございます。特定復興再生拠点区域の除染の工事の進捗状況でございますけれども、全体３１９ヘクタールのうち２９９ヘクタールにつき除染が完了してございまして、進捗率は９４％となっております。残る２０ヘクタールにつきましては、未同意画地の２．２ヘクタール及び関係人のご都合によって昨年度までに除染を実施できていなかった土地というところでございまして、引き続き除染の進捗に向け全力を尽くしてまいります。なお、こちらの表には仮置場については含まれてございませんので、念のため申し上げます。

続きまして、翌ページに移らせていただきます。右肩３ページでございます。同じく除染の状況

でございますが、同意の取得率でございます。8月末時点におきまして、対象1,520名の方のうち1,490名の同意をいただいております。この際町の皆様のお力も借りて、前回ご報告時より3名新たに同意をいただいている状況となっております、取得率といたしましては98%となっております。引き続き、未同意の方々につきまして、連絡先不明の14名の方々につきましては連絡先を調査してございますところです。また、除染にまだご理解をいただけていない方々、あるいは判断を保留されている方々、また避難指示解除直前の除染をご希望の方々につきましては、引き続き環境省からアプローチし、町の皆様のお力もお借りしつつ同意の取得を目指してまいります。

翌ページでございます。右肩4ページでございます。こちら、参考といたしまして特定復興再生拠点区域内及び外縁の位置図を改めてお示ししてございますところです。なお、外縁の範囲につきまして、面拠点内、面拠点外及び線拠点外への仮置場につきましては後ほど仮置場の担当よりご説明申し上げます。また、外縁の除染につきましては、原則として特定復興再生拠点から宅地農地は20メートル範囲内にある1筆を除染申し上げ、また森林道路は最大20メートルの範囲を除染してまいります所存です。除染解体工事の状況につきましては以上でございます。

○議長（高橋 実君）　そこで止まってください。私から、課長、1ページの工程表の一番上、除染29年度からずっと引いてきて、令和4年度、5年度の境のところに拠点区域、避難指示解除というラインになっているのだけれども、これ12月なのか、春なのか、それとも……ここははっきりしておいて。

中村課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部環境再生課課長（中村 祥君）　ご質問いただきましてありがとうございます。表の中の縦の黒い線のことをご指摘いただいたと理解しております。こちら、年度末のことを意味しております。12月ではなく、年内ではなく、年度内ということの意味している次第です。

○議長（高橋 実君）　そうすると3月でいいのかな、12月なのかな。はっきりそのとこしておいて。

中村課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部環境再生課課長（中村 祥君）　こちらの線は、3月末を意味してございます。

○議長（高橋 実君）　3月末ね。ありがとうございます。

まず、資料1の環境再生課の分の説明が終わりましたので、この分の質疑を行います。質疑ございませんか。

1番、堀本典明君。

○1番（堀本典明君）　今ほどご説明いただいて、今議長からもご指摘あったところなのですが、29年度からの継続事業ということで、この1ページのスケジュールあると思うのですが、この除染解体に関わるということというのは避難指示解除に重要に関わってくるところなのです。ちょっと今もう9月にな

ってきておりますので、3月なのか、これはどこを避難指示解除というような思いを持っているのかちょっと分からないですけれども、春と言っているんで、その辺りまでの工程、もうちょっと細かいのを出していただいて、その進捗が本当に進んでいるかどうか、その確認を我々知る必要もあるので、もう少しこのところをピックアップしたもうちょっと細かな工程、分かりやすい工程を出していただかないと判断つかないし、前回準備宿泊始まる前も遅れているというようなことで、我々何回か現地視察もさせてもらったりしましたので、その辺りもまた考えなければいけないかもしれないので、今日は無理でしょうから、次回と言わずに今後準備していただいて速やかにこの辺の工程を我々に提示いただきたいのですが、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 中村課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部環境再生課課長（中村 祥君） ご指摘をいただきましてありがとうございます。工程につきまして、ぜひ検討の上より詳細なものをお示しするように相談してまいりたいと存じます。

○議長（高橋 実君） 来週金曜日までに提出してください。

1 番、堀本典明君。

○1 番（堀本典明君） 今議長からおっしゃっていただいた来週金曜日までということでぜひお願いします。

それと、4 ページの外縁除染につきましても、これの除染解体のスケジュールに入っているのかどうかちょっと分からないので、それが入っているならば同じような工程が出てくるのか、別枠で考えているのであればそういった工程も、まだ煮詰まっていないのであれば大きめの工程でいいので、その辺りの工程もご提示いただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 中村課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部環境再生課課長（中村 祥君） ご指摘ありがとうございます。当初の全体の工程表につきまして、来週金曜日までということで、その時点までで検討の上、お示しするように努力いたしたいと思っております。外縁のところにつきましてはおっしゃるとおりで、現時点では面拠点外縁から松ノ前墓地外縁から東に向けてまとまりを持った地域ごとに順次進めるというところで検討してございます。もちろん安全第一を前提にということで検討しているところでございます。ちょっと同じようなレベルでの工程をお示しできる状況にはないかとは思っておりますが、何らかご理解をいただけるように何かどういう形でお示しできるか内部で検討したいと思っております。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

7 番、安藤正純君。

○7 番（安藤正純君） 確認なのだけれども、この1 番のスケジュール表の除染というのと一番下に解体というのがありまして、除染は令和4 年度だから来年の3 月末まで入ると思うのだけれども、こ

の4ページにちょっと当てはめてもらいたいのだけれども、4ページのピンクの部分、この特定復興再生拠点区域内、これピンクが全部そうだと思うのだけれども、これは来春、3月末まで間違いなく終わらせるということによろしいのかという確認と、一番下の解体というのがまだまだ令和5年度までこれ延びているから、この復興拠点内も3月いっぱい解体は終わらないのかどうか、そのところちょっと教えてください。

○議長（高橋 実君） 中村課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部環境再生課課長（中村 祥君） ご質問いただきありがとうございます。解体につきましては、申請をいただいて、それを踏まえて調整の上、解体を進めているところでございます。通常これまでほかの町村においても、解除の時点で解体申請を受付を停止するということとはございませんで、もし避難指示を解除された場合にあっては解除後も一定期間解体の申請を受け付けているという状況でございます。それもありまして、こちらの工程では令和5年度のところまでずっと矢印を引かせていただいているという状況でございます。一定そういう意味で申請いただいたタイミングを踏まえて適切な、解除までに間に合うタイミングで申請いただいたものに関しては着実に解体を進めてまいりたいという状況でございます。

以上です。

○議長（高橋 実君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 解体については、これは町民の方もぎりぎりまで判断がつかないとか、そういった関係で解除まで間に合わないという方もいらっしゃると思うので、今の説明で理解しました。

あと、もう一点のピンクの部分の除染、これは令和4年度末だから3月31日までで全部終わらせるということでもいいですね、ここは。確認であります。

○議長（高橋 実君） 中村課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部環境再生課課長（中村 祥君） ご指摘ありがとうございます。回答漏れしておりまして、失礼いたしました。面拠点のところに関しましては、同意が取得されて着手可能となったものに関してはきちんと年度内に終わらせていきたいと考えてございます。

○議長（高橋 実君） ほかにございませんか。

3番、佐藤啓憲君。

○3番（佐藤啓憲君） フォローアップ除染の関係で、前の全員協議会とかでも引き続きお願いしますということで要望していたのですが、町による線量率測定の結果でスポット解消に向けて取り組んでいますということなのですが、今現状で町民の方からの要望でここが高いのでやってくれみたいなどの件数とか、そういうところはあるのかどうか。あと、そういうものを反映されて、スポットをについても準備宿泊始まっていますので、そういった件数についてもちょっと教えていただきたいのですが、よろしくお願いします。

○議長（高橋 実君） 中村課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部環境再生課課長（中村 祥君） ご質問いただきありがとうございます。フォローアップにつきまして、町の皆様の線量測定の結果も踏まえて既に進めているところもございます。引き続き、もし線量が高いというところございましたらフォローアップを進めてまいりたいという状況でございます。

○議長（高橋 実君） 3番、佐藤啓憲君。

○3番（佐藤啓憲君） これは、町では町民からの要望というか、あとはそれを恐らく環境省に伝えてということで行われていると思うのですけれども、町にはその要望というのは結構入ってきているものですか。よろしくお願いします。

○議長（高橋 実君） 生活環境課、大館補佐。

○生活環境課課長補佐兼環境衛生係長（大館衆司君） 町にもそのような希望が出てきておりますので、それにつきましては我々でも把握して環境省と協議してそれをしていただくというようなことで進めていただいております。

○議長（高橋 実君） 3番、佐藤啓憲君。

○3番（佐藤啓憲君） ありがとうございます。あと半年ぐらいで解除になるということで、引き続きよろしくお願いしますと思います。

以上です。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） 先ほど1番さんと7番さんで出た外縁除染の件でちょっと確認しておきたいのですけれども、前回のときも1ページの一番下のとおりの文章で順次除染を進めるということで前回も出ていたのですけれども、今回も同じような状況なののですけれども、今年度から始めるというような話だったのですけれども、この外縁に対しても対象の人と同意の人と取得率というのがあろうかと思うのですけれども、集まらないから、まとまらないから除染が進んでいかないのかなというような気もするのですけれども、その辺も併せて進捗は出していただけますでしょうか。確認です。

○議長（高橋 実君） 中村課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部環境再生課課長（中村 祥君） 外縁につきましてはおっしゃるとおりでございます。前回も併せてまとまりを持った形で進めていくというところございまして、ほかの面のところでお示ししているような形でその同意の数なり取得率というところはお示しするのが適切かどうかというところございまして、ちょっとこちらに関してはどういう形でお示しするのが適切かというところも併せて一度持ち帰らせていただければと思ってございます。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） なければ、資料 2、輸送課の分に入ります。

輸送課で説明をお願いします。

杉課長。

○環境省福島地方環境事務所中間貯蔵部輸送課課長（杉 浩行君） それでは、私から令和 4 年度の中間貯蔵施設への移送状況ということで、資料 5 ページ目になります。令和 4 年度の輸送につきましては、特定復興再生拠点において発生した土壌等を中間貯蔵施設へ搬入を進めるということにしています。下に令和 4 年度の輸送実績記載してございます。令和 4 年 8 月 31 日時点の数量でございます。上段が県全体の輸送量と総輸送車両数、記載のとおりでございます。特に下に黄色の枠囲みでしてありますところが、富岡町からの輸送の状況でございます。輸送量 1 万 999 立方メートル、輸送車両数計 1,548 台、8 月 31 日時点というところでございます。

続きまして、6 ページ目でございます。令和 4 年度の実績と前年度の実績、それぞれ令和 4 年度がオレンジの棒グラフ、それと前年度が緑の棒グラフということで進捗を示してございます。前年度は約 36 万 3,000 立方メートルということでボリュームが多かったのですが、今年度につきましては富岡町 2 万 2,000 立方メートルという数量で予定しておりまして、昨年度より少なめに推移してございます。7 月、8 月がゼロになってございますが、過年度の輸送工事が終了いたしまして、今年度、次の契約の工事、輸送の準備を進めているところでございます。できるだけ早く輸送を再開させたいということで調整させていただいております。

続きまして、7 ページ目でございます。仮置場の輸送に当たって、使う仮置場と地図を示してございます。今年度につきましては、深谷 1 仮置場、それと深谷 3、深谷国有林仮置場を利用させていただいています。その中でも深谷 1 仮置場については 4 月に輸送が完了しておりまして、今後深谷 3、深谷国有林仮置場、この 2 つを使って輸送を進めていきたいと考えてございます。今、次の輸送の準備中ということでございますが、深谷 3 仮置場につきましては年度内に輸送を完了したいというようなことで準備を進めてございます。

続きまして、8 ページ目でございます。輸送ルートの地図を示してございまして、輸送ルートを青実線で示してございます。前回の全協で楡葉町からの輸送ということで、国道 6 号を北上する実線が入ってございましたが、楡葉町の輸送は 6 月に完了いたしまして、今後は青実線で示してございまして、富岡町内での輸送のみということでございます。輸送は以上でございます。

○議長（高橋 実君） ありがとうございます。

輸送課の説明が終わりましたので、質疑に入ります。質疑ございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） ないということで、次に資料 3、仮置場対策課、澤課長から説明をお願いします。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部仮置場対策課課長（澤 邦之君） それでは、

資料に基づきご説明申し上げます。

右肩 9 ページと書いてある資料でご説明いたします。仮置場の原状回復及び返地計画です。今年度につきましては、拠点内の仮置場につきまして除染を行う、こういう工種を考えております。小良ヶ浜地区の仮置場は、造成したときに一定の線量低減措置、田面の表土を剥ぎ取るということを行っております。ですので、令和 4 年度の仮置場内、拠点内の復旧工事の除染につきましては、春頃避難指示解除予定がされる特定復興拠点の仮置場は原状回復工事としての採石通路の一部の撤去と、場内の未除染箇所を除染することとしております。場内の未除染箇所というのは、下の箱の中、米印、除染対象と書いてあるところにございますけれども、田畑の畦畔部分、それと林地、屋敷林と、それから場内の未舗装の道、それと水路、これを予定しております。線量モニタリングを行って、線量が高いところにつきましてはさらに追加的な対応をするという予定でございます。さらに、面拠点と接する仮置場場内の外縁除染もこれは実施していくという予定でございます。令和 5 年度以降ですけれども、同仮置場の復旧工事を進めていって返地に向かうのですけれども、その内容につきましては地権者様のご意向を踏まえて原状回復工事のメニューを実施していこうと思っております。今回除染工事の対象としているのは、右の地図の青い枠の中でございます。地図の下で補足でございます。線拠点に隣接する除染仮置場につきましては、まず拠点外の仮置場については今使用中の仮置場が多うございます。当面仮置場として使っていくのですけれども、線拠点に隣接している箇所にフレコンがまだ置いてございます。これは除去土壌等ではなくて、遮蔽土等のバージン材、汚染物質は含まれていない土でございます。こちらは、やはり黒いフレコンに入っているということで、町民の方の懸念があるというように伺っております。ですので、こちらにつきましては仮置場場内に移動しまして、運搬、破袋、整地をしていこうというつもりでございます。一部未除染の田面があるようでございます。これについては、除染を実施するという予定でございます。廃棄物仮置場について補足しておりますが、これにつきましては舗装されている仮置場でございまして、こちらはまだ使っておるところでございます。こちらにつきましては、使用終了後、返地前に除染をしていきたいと思っております。

10 ページに移りまして、今のこの除染に関わる同意取得状況でございます。おおむね同意取得は進めておりまして、完了しておりまして、工事業者が決まったところでございますので、順次除染を着工していける状況でございます。

仮置場としては以上でございます。

○議長（高橋 実君） 町で今の説明に補足する部分あれば。

〔「ありません」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） では、説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑ございませんか。

1 番、堀本典明君。

○1 番（堀本典明君） まず、仮置場の造成時の一定の線量低減措置というような書き方になってい

ますが、これは除染と同等の施工をされたのかどうかちょっと分かりづらいので、その辺りのご説明をいただきたい。

それと、これ先ほどと一緒になるのですが、ここも避難指示解除に向けての、除染とは呼ばないようなので、線量低減措置が行われるということは避難指示解除に重要に関わってくることなので、工程が全然ないのでこの辺りの現状どうなっているかということと、その工程の提出をまたお願いできればと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 澤課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部仮置場対策課課長（澤 邦之君） ご指摘ありがとうございます。まず、スケジュールでございますが、承知いたしました。除染のスケジュールと併せてご提示できるように準備いたしたく思います。

あと、一定の線量低減措置の書き方でございますが、仮置場を造成したときには除染という言い方はしておりませんでした。が、実質田面の表土を5センチないし場所によっては7センチ剥ぎ取ることにしておりまして、田面については剥ぎ取っていますという状況でございます。畦畔がそのとき除染をしておりませんでしたので、今回その畦畔や水路、そのとき手を加えていない場所について除染をするということでございます。内容につきましては、一般的な剥ぎ取りと同等のやり方をしているものでございますので、これは我々としては除染を進めていこうと思っております。

以上です。

○議長（高橋 実君） 1 番、堀本典明君。

○1 番（堀本典明君） ありがとうございます。工程表はよろしく願いいたします。

除染と同等の線量低減措置をされたということですが、その後仮置きされているので、その辺りの線量の確認等々していただいて、やはりここでも高いところは対応しますというようなことなのですが、どこが高いのか、どこが低いのか、そこって必ずどこだという話は出てこないと思うので、低減措置をされたときのデータは残っていると思うので、それより上がっているようなところがあればぜひもう一度しっかり低減措置をしていただきたいと思いますと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 澤課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部仮置場対策課課長（澤 邦之君） ご指摘ありがとうございます。今ご指摘あったように、線量については調査をしております。今回除染の工事の対象としているところも、既に高いということが分かっているところを除染するつもりでございますので、その辺り適切に進めてまいりたいと思います。ありがとうございます。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

7 番、安藤正純君。

○7 番（安藤正純君） 10ページの拠点内区域対象25名で、同意者が24名、この残り1名は連絡調整中なのですが、復興拠点内であれば来春の解除に間に合わせてほしいのですが、今の見通しと

してこの1名調整中になっていますけれども、来春まで何とか除染というか、解除に間に合うように調整できるのでしょうか。見通しをお願いします。

○議長（高橋 実君） 澤課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部仮置場対策課課長（澤 邦之君） ご指摘ありがとうございます。この残った1名の方、連絡ついている状況でございます。ですので、お話をしながら同意進めていきたいと思っておりますので、役場とも調整をしながら同意を進めていきたいと思っております。連絡はついている状況でございます。

○議長（高橋 実君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 調整中だから、すぐ分かったようでオーケー取れなかったということで、トラブルとか何か、もし話せる範囲であればお願いします。

○議長（高橋 実君） 澤課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部仮置場対策課課長（澤 邦之君） ありがとうございます。個別の調整内容は、ここでお話しするのは控えさせていただきますが、まず連絡がついているということで、遠いところにお住まいの方ですので、お話を随時連絡取り合って進めているところでございます。個別の調整状況について、個人的な情報も含まれますので、ここでは控えさせていただきます。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） 今の同意のところなのですけれども、この同意というのは仮置場の外縁に当たるところの人数だと判断しているのですけれども、これも除染始まっていないですよ。こちらの仮置きだったところも避難指示解除になるわけで、その外縁のところは仮置きのところが全部ではないですけれども、仮置きのところに当たっているところが結構多いので、その除染というのはいつから始まって、きちっと3月までに終わるということでいいのでしょうか。

○議長（高橋 実君） 澤課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部仮置場対策課課長（澤 邦之君） ご指摘ありがとうございます。こちらに掲げております面拠点外縁といいますのは、9ページでいう地図の青いところの区画を指してございます。ここ仮置場全体のことを指しているのではなくて、拠点に隣接する外縁の仮置場の地権者様ということになります。この方々が地権者様の数にして11名いらっしゃるの、この方と調整をしたというところでございます。調整はついておりますので、こちらについては除染をする予定です。こちらの面拠点の外縁も仮置場でございますので、田面の除染、剥ぎ取りはもう終わっておりまして、あと残っておりますのは畦畔ということでございます。今年度事業者と調整しながら、この外縁も除染の対象にしていこうと思っております。

以上です。

○議長（高橋 実君） 6 番、遠藤一善君。

○6 番（遠藤一善君） 対象にしていますでなくて、だってもう今9月なので、いつから外縁のところは始まるのですか。

○議長（高橋 実君） 澤課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部仮置場対策課課長（澤 邦之君） 失礼いたしました。詳細なスケジュールは、また工程を示す中でご説明できるかと思いますが、業者がつい先日決まったばかりでございます。これから契約して具体の工事に入っていくのですけれども、もう工事は入れる状況でございますので、準備が整い次第、同じように工事を進めていきたいと思っております。

以上です。

○議長（高橋 実君） 6 番、遠藤一善君。

○6 番（遠藤一善君） だから、ちょっと混乱していて申し訳ないのですけれども、先ほどのときは仮置場の外縁は仮置場は確保していたのですけれども、この大きな地図、その前の4の地図でいくと全部同じ色でずっとついているので、こっちは先行して始まれるということでいいのでしょうか。

○議長（高橋 実君） 澤課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部仮置場対策課課長（澤 邦之君） 大変失礼いたしました。混乱させて申し訳ございません。仮置場の中の復旧等工事、今回は除染ですけれども、は拠点内の仮置場でないところの除染残した別の工事になってございます。その別の工事の入札がつい先日決まったところでございまして、これに基づいて仮置場の中は別工事として進めることになっていくのです。その工事の受注者が最近9月入ってから決まりましたので、こちらを進められる状態になったということでございます。

以上でございます。

○副議長（堀本典明君） 議長。

○議長（高橋 実君） 澤課長、この20町歩の低入札価格調査にかかったやつの件なのだけれども、その東側、西側面した20メートルの部分は、今回の低入札価格調査にかかった設計内訳書は数量入っていないだろう。入ってなくて、今から低入札価格調査にかかった中川企画で3月工期のやつ12月までやれと指示出したみたいだけれども大丈夫なの。師田さん、富岡町、我々議会も前から言うように、来春待ち望んでいる町民がいる限り反対はしたくない。さりとて圧力的に物事も国が持っていこうとしているのならば俺は許さないよ。俺は許さないからな。やっそこ決まってどこまで解除するのだから分かっていて、その5工事から20町歩も仮置場だからって抜いているやつも説明しないで、ピンクに染めてきても議会側に提出しているのだから。これ数か月、1か月半ぐらい前だから、前所長でちゃんと掲示したのが。このときはまた公告もしてなかったのだから、入札の。だから、間に合うのか、間に合うのかと随分言ってきた。実は昨日竹原副町長と一緒に郡山に避難している老人のゲ

ートボール大会に行ったら、やっぱり向こうの出の人がいつ戻られるのだ、何だかんだと。こういう目に遭ったことないから国は分からないのだっていうのだ。事務局で挨拶文つくったやつ一行も読めなくて、挨拶してきた私は。朝一番で黒田さんらにも怒ったけれども、こんなこと言っていない何だのと。言ってもなくても何でもいから、当初どおり約束守られるように関係する省庁は手取り合って、汚点の回しっこしないでしっかりやってもらいたい。そうでなければ、私が自分なりに動きます。震災のときに遡って、マスコミ呼んで全部お話しして教えます。写真もみんな持っているから。そのつもりでやってもらいたい。出すのが前任者が忘れていた、何していた、これは家の中の話だって。だから、先々週も大臣来たときも言ったでしょう。人が替わるたびに白紙撤回でもう一回やるようなやり方はしないでくれよと。月、火と連続で来た大臣と副大臣に言ったから、私は。富岡も後ないのだ。待っているのだ、今、戻りたい人は。1人だって。そんななすり合いで責任転嫁するようなこととかは、仮に町で国の言うこと聞かないならばというような考え持っていたのならば絶対俺は許さない。マスコミの人がそのまま書いてくれて構わないから。俺が批判かかるのはいい。議会に批判いったのでは困るけれども。これだけは師田さんにきつく言うておくから。副本部長なのだから。

○副議長（堀本典明君） 師田副本部長、どうぞ。

○内閣府原子力災害現地対策本部副本部長（師田晃彦君） ありがとうございます。まず、今のお話、しっかり環境省と整理をしてお答えを申し上げます。

それから、人が替わると後退するのではないかとご指摘いただきました。確かに人事異動があるのは、これは国の機関なので、これはちょっといかんともしい難いところあるのですけれども、私も昨年夏まで担当させていただき、1年でありましたけれども、また戻ってまいりました。皆様の住民の方々が戻りたいという気持ちを実現させたいという富岡町議会のお気持ちは十分理解しているつもりでございますので、しっかり今の議長のご指摘も受け止めさせていただいて、環境省とも連携しながら取り組んでまいりますので、ぜひ引き続きご指導いただければと思います。よろしくお願いします。

○副議長（堀本典明君） 議長。

○議長（高橋 実君） それに伴って、町も国に言いづらいとか何かでないのだから、しっかり言うべきものは言って、協力できるところは協力して、当初予定に上げているやつをクリアできるようにしてくれよ。町も何かないのかと振ったって誰も手挙げないでしょう。がっかりした。今後はそういうことのないように、言うべきところは言うてください。課長クラスも、副町長も、町長もよろしくお願いします。

○副議長（堀本典明君） 町長。

○町長（山本育男君） 今の議長のご指摘、誠にありがとうございます。我々もちょっとおとなしめな雰囲気を持っているように思われているかも知れませんが、我々も言うときは必ずきっちり言っておりますし、またいろいろとご相談するときはしっかりご相談するというような形を取っておりますので、今後とも引き続きまた議会の皆様とも協力しながら、これをなるべく早く進めるように我々

も取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○副議長（堀本典明君） 澤課長、先ほど議長から工事の件で説明とちょっと食い違っているというような、仮置場の部分と外縁の部分が説明とちょっと違うのではないかというようなご質問あったと思うのですが、その辺りのご答弁をお願いします。

澤課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部仮置場対策課課長（澤 邦之君） ご指摘ありがとうございます。議長のご指摘のとおり、今入札で発注をしている当初の設計書の中には拠点の中の工事が含まれているところで、外縁のところは今含まれておりません。落札者が決まりましたので、今後落札者と協議をして進めていくところでございますが、契約後この部分追加で指示を協議の上出させていただきます、こちらの外縁も工事を進めていくというつもりでございます。

○副議長（堀本典明君） 議長。

○議長（高橋 実君） それで、低減させんのに云々というばんたび言うけれども、これは除染行為でないからね。何回言っても。そこら辺は、澤課長も、それなりの環境省の人も町の竹原副町長から十二分話行っていると思うから、いま少し来週の金曜日まで時間取ったのはそういうこともあるから、つじつまを合わせて、ちゃんとしっかりした最終の日程つくらないと、本当に来春間に合うものも間に合わなくするからね。だから、人が替わるたびに遅れたり、やると言ったやつやらなかったりしているのかって大臣来ても、副大臣来ても言っているのだから。来週また大臣来るから、環境省の、しっかり言うようになる、私が。こういうことさせないで、やらなければならないことはやってください。農地と宅地は違うのだから。国で法違反するようなことを平然としていたのでは話にならない。澤課長、よろしく、中村課長、よろしくお願いいたします。

終わります。

○副議長（堀本典明君） 今厳しいご指摘ありました。所長、いかがでしょうか。

関谷所長。

○環境省福島地方環境事務所所長（関谷毅史君） 今議長からご指摘いただきましたこと、まずこの拠点内の仮置場の工事が別発注になっていたということについて、まず議会の皆様へのご説明が大変遅くなったということについて改めておわびを申し上げたいと思います。また、これも今まさに議長からご指摘をいただいたとおり、仮置場に関しての別発注の工事の中に面拠点外縁とここで書いてあります部分の数量が入っているかといいますと入っていなかったということについても、私どもとしても同じ工事の中に盛り込みたいということで、これから受注が決まった業者と調整をさせていただく段階ということでございます。したがって、現時点では業者との相談の前でございますので、私ども今日申し上げましたのは、私どもとしてはこの工事の中で解除に向けてしっかりと進めさせていただきたいということでございますけれども、そこは議長からご指摘あった業者に12月までとかと

いう形で今の時点で約束を迫っているということではなくて、むしろこれから業者としっかり協議をさせていただき段階ということでございます。何より町民の皆様にご負担を与えないように、安全にも注意しながら、しっかりと効果の出る除染あるいは仮置場の中の復旧というものを進めさせていただきということで進めてまいりますので、何とぞ引き続きご指導をよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 次に、資料4、廃棄物対策課。

西山課長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部廃棄物対策課廃棄物処理施設運営管理室室長（西山卓也君） では、資料に従いまして、私から特定廃棄物埋立処分事業の状況等についてご説明申し上げます。11ページ目御覧ください。輸送、埋立ての実績についてお示しをしております。最新の情報でございますけれども、令和4年度の8月末時点で累計24万2,875袋の廃棄物の搬入をさせていただきました。搬入当初と比較して、現時点、9月初旬時点の上空の写真を右下におつけをしております。土堰堤といたしましては、10段目まで完成をして埋立て工事を実施している状況でございます。

では、12ページ目、埋立て実績と埋立て計画についてでございます。ご承知のとおり、特定廃棄物の埋立て期間につきましては開始から約6年でございますけれども、そうなる令和5年度までの特定廃棄物等の埋立ては約30万袋を計画しているところでございます。令和3年度末には22万1,043袋の搬入をさせていただいたことから、約74%の埋立てが完了しているところです。特定廃棄物の埋立て完了後も、双葉郡8町村の生活ごみにつきましては引き続き約4年間の埋立てを予定しております。

では、13ページ目御覧いただければと思います。環境モニタリングの結果についてでございます。当施設につきましては、上段にご説明をさせていただいているとおり、様々な環境モニタリングを実施しているところです。モニタリング調査の実績といたしまして、3つご紹介をさせていただきます。下のグラフでございますけれども、ア、敷地境界における空間線量率でございますけれども、最新の情報といたしまして令和4年の8月まで処分場の埋立て工事に伴う異常は観測されていないという状況でございます。右に行っていただきまして、イ、施設下流域の河川水中の放射能濃度につきましては、調査の結果、全て検出下限値未満でございました。ウ、放流水の重金属等の濃度につきましても、平成29年11月の埋立て開始以降、法令で定める基準等を全て下回っているという状況でございます。

輸送について、14ページ目を御覧ください。特定廃棄物につきましては、令和4年度は年間で約5万袋の輸送を予定しております。輸送車両が集中する国道6号における輸送台数は、1日当たり最大65台程度でございます。富岡町内からの搬出につきましては、令和4年度中をめぐにおおむね輸送を完了する予定でございまして、深谷国有林地内施設から5,000袋程度を予定しております。双葉郡8町村の生活ごみの搬出につきましては、今年度、令和4年は年間で約1,000袋を輸送予定でございます。輸送ルートにつきましては、右の地図をご参照いただければと思います。

では、最後、おめくりいただきまして、15ページ目でございます。富岡町に設置をさせていただ

でございます特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしまにつきましては、令和4年8月31日時点で来館者累計6万3,687名となりました。新型コロナウイルスの感染防止対策を図りながら、引き続き地域に根差した様々な活動を行ってまいりたいと考えてございます。トピックスといたしまして、リプルンふくしまにつきましてはおかげさまで8月24日に開館4周年を迎えることができました。皆様のご支援につきまして、この場をお借りして御礼申し上げます。7月22日から8月31日までの期間、リプルンふくしま4周年感謝イベントを開催させていただきました。富岡町をはじめ、福島県内の方に多くご参加いただいたという状況でございます。左下でございますけれども、6月28日に富岡小学校の4年生の皆様にご来館いただきまして、自然観察を行っていただきました。今回は、秋に来館予定とお聞きしてございます。その右でございますが、ふたばワールド2022にリプルンふくしまといたしましてブースを出展する予定でございます。

資料につきましては以上でございます。

○議長（高橋 実君） ありがとうございます。

廃棄物対策課の説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑ございますか。

7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 13ページ、ウの放流水の重金属等濃度、放流水に関しても平成29年11月の埋立て開始以降、法令で定める基準値等を下回っているなのだけれども、こういったものが検出されて、どういう数字だったかということが出ていないと基準値を下回っていると言われても理解できないので、こういったものは具体的に数字と金属名を公表すべきだと思うのですが、どのように考えますか。

○議長（高橋 実君） 大友室長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部廃棄物対策課最終処分場管理室室長（大友 宏君） ただいまの質問でございますけれども、ここに書いてある重金属等ということなのですが、全く出ていないです。重金属については。処理してますので。その辺についてはホームページにも全て載せております。

○議長（高橋 実君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） でも、今の説明のこの書き方では出ていないとは読み取れないので、結局法令で定めている基準値を下回っていると書いてあるから、出ているのだけれども、法令よりも下回っているとしか解釈できないので、今課長が言ったように出ていないのであれば出ていないと書いてもらわないと理解できないと思うけれども。

○議長（高橋 実君） 大友室長。

○環境省福島地方環境事務所環境再生・廃棄物対策部廃棄物対策課最終処分場管理室室長（大友 宏君） その辺のところは、重金属と一般部分が混ざった書き方になっていますので、その辺はちょっと考えていきたいと思います。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） これをもって質疑を終了いたします。

以上をもちまして付議事件１、除染解体工事及び中間貯蔵施設への輸送並びに特定廃棄物埋立処分事業の状況についてを終わります。

ここで説明者の入替えのため暫時休議します。

休 議 （午後 ２時 ０４分）

再 開 （午後 ２時 １２分）

○議長（高橋 実君） 再開いたします。

次に、付議事件２に入ります。

説明のための出席者は、お手元に配付した名簿のとおりです。初めに、代表して復興本庁原子力災害復興班、西村参事官よりご挨拶をいただき、その後各自名簿順に所属と名前のみの自己紹介をお願いします。なお、発言はお手元のマイクのボタンを押してからお願いします。

それでは、西村参事官、ご挨拶をお願いします。

西村参事官。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官（西村 学君） ただいまご紹介いただきました復興庁原子力災害復興班参事官の西村でございます。本日は里山再生事業についてご説明の機会をいただきまして、誠にありがとうございます。

東日本大震災後、被災地の皆様にご不便をおかけしていることを改めましておわびを申し上げます。復興庁といたしましては、福島のリ興なくして東北のリ興なし、東北のリ興をなくして日本の再生なしという考え方の下、被災者の皆様の意見を聞きながらしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。本日は貴重な時間をいただきまして、本当にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） ありがとうございます。

次に、各自名簿順に所属と名前のみの自己紹介をお願いします。

初めに、復興本庁、次に福島復興局、環境省、林野庁の順にお願いします。

最上さん。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官補佐（最上祥成君） 復興庁原子力災害復興班参事官補佐、最上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 坂本さん。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官補佐（坂本 充君） 復興庁原子力災害復興班、坂本充でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 深澤さん。

○復興庁福島復興局参事官（深澤東和君） 復興庁福島復興局参事官の深澤です。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 鈴木さん。

○環境省環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官室参事官補佐（鈴木祐介君） 環境省環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官室の鈴木でございます。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 飯塚さん。

○環境省環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官室除染活動推進員（飯塚嘉弘君） 環境省環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官室の除染活動推進員の飯塚です。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 鈴木さん。

○林野庁森林整備部研究指導課放射性物質影響評価官（鈴木 明君） 林野庁森林整備部研究指導課放射性物質影響評価官の鈴木です。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 山下さん。

○林野庁森林整備部研究指導課森林除染技術指導班課長補佐（山下泰宏君） 林野庁研究指導課、山下と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） ありがとうございます。

それでは付議事件2、里山再生事業についての説明をお願いいたします。説明は着席のままで結構です。

西村さん。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官（西村 学君） それでは、私西村から資料の説明をさせていただきます。議長にご配慮いただきましたので、着座にてご説明をさせていただきます。

まずはお手元に配付させていただいた資料についてご確認いただければと思います。1枚目、里山再生事業についてというペーパーでございます。2枚目、里山再生事業の基本構成というペーパーでございます。3枚目でございます。こちらは、福島県より県内の48市町村に配付していただいております里山再生事業の実施についてという資料でございます。最後でございます。里山再生モデル事業実施結果概要でございます。こちらは、平成29年から令和元年にかけてグリーンフィールド富岡で実施させていただきました里山再生モデル事業の結果でございます。以上が本日の配付資料でございます。

それでは、資料に沿ってご説明をさせていただきます。まず、1枚目の里山再生事業についてを御覧ください。こちらの事業でございますが、2016年3月に復興庁、農水省、環境省で取りまとめました福島の森林・林業の再生に向けた総合的な取組に基づきまして、日常的に人が立ち入る里山の再生に向けた取組として里山再生モデル事業を開始いたしております。2020年1月にモデル事業の中間取りまとめを行い、2020年度以降も里山再生事業として里山の再生に向けた取組を実施することとした

しております。その詳細については、下に書かれているものでございます。まず、事業の目的といたしましては、住民の安全、安心の確保に資する取組として、当該里山の様態に合わせて、既存の林野庁森林整備事業、環境省の除染事業、復興庁の加速化交付金事業を利用した線量測定事業などを同時、同所的に組み合わせて実施することにより、住民の方が安心して森林公園など身近な里山を利用できるような環境づくりを推進することを目的とした事業でございます。その下、対象でございます。事業の対象となる里山につきましては、住民の方々が身近に利用してきた住居周辺の里山、具体的には森林公園、遊歩道、キャンプ場等を対象としております。また、事業の対象地域についてでございますが、除染特別地域及び汚染状況重点調査地域のある福島県内市町村としております。地図がございませうけれども、こちらの緑と黄色の部分が対象の市町村でございます。県内の48市町村が該当しております。その事業内容や対象となる里山の具体例、手続などに関して、毎年度初頭に福島県を通じて各市町村にお知らせをしていただいております。その資料につきましては、3枚目に添付している資料でございます。続きまして、事業内容でございます。右側にございますが、除染、森林整備、線量測定の3つの構成事業のうち、市町村の要望に応じ、2つもしくは3つの事業を組み合わせて実施させていただきます。各省庁がそれぞれ実施している既存の除染事業と森林整備事業などを同時、同所的に実施するスキームでございます。具体的内容につきましては、除染であれば人が日常的に立ち入る場所で、堆積物除去や残渣除去等の除染を実施しております。森林整備につきましては、間伐などの森林整備と丸太筋工の設置等の放射性物質対策を実施しております。線量測定につきましては、住民の利用形態を想定した遊歩道等の空間線量率の測定や個人被曝線量の測定等を実施しているものでございます。

続きまして、2枚目を御覧ください。里山再生事業の基本構成でございます。図にも記載させていただきますが、里山再生事業は既存の林野庁、森林整備事業、放射性物質対処型森林・林業再生総合対策事業と環境省のいわゆる除染に係る事業、そして復興庁の福島再生加速化交付金を利用した工事を行う前と行った後の線量測定事業の3つの組合せによるものでございます。よって、除染につきましては環境省が通常行っている除染のやり方と同様のものとなりますし、林野庁が通常行っている事業のやり方についても同様のものとなります。1枚目の里山再生事業についても記載させていただきましたが、対象となる里山は森林公園、遊歩道などがあり、散策利用が見込まれるなど一定の要件を満たす里山が選定の対象となっております。富岡町におきましては、グリーンフィールド富岡などがそれに当たり、これまでもモデル事業を実施させていただいているものでございます。里山における除染事業、森林整備の事業、線量測定の事業、2つ以上組み合わせて効果的な事業効果を発揮するという事業のスキームでございます。これにより、里山を散策等される住民の方々が安心して利用できるような環境づくりを図るものでございます。各市町村からの実施のご相談、ご要望を受け、復興庁及び関係機関においては各市町村へのヒアリング、現地調査などを行い、現地の状況や効果等を勘案しつつ採否を決めることになってございます。なお、事業の実施状況につきましては1枚目の右下に記

載しております。これまでに6市町村9か所を採択し、事業を実施中でございます。モデル事業を含めれば、累計として16市町村20か所での実施となっております。採択されました区域につきましては、現地施工のスケジュール、工法などにつきまして、市町村と十分に調整を図りながら進めることといたしております。

次に、グリーンフィールド富岡里山再生モデル事業実施結果の概要でございます。富岡町におかれましては、町からの提案、協力をいただきながら、里山再生モデル事業においてグリーンフィールド富岡にて歩道沿いや広場における除染、森林整備等を実施いたしました。結果については町執行部へお知らせしつつ、またホームページなどでも公表しておりますが、空間線量率の低下など一定の効果があつたものと認識をいたしております。その後里山再生事業といたしましても引き続きグリーンフィールド富岡を採択しており、現在も森林整備を進めているところでございます。今後も引き続き関係機関と連携しつつ、適切に進めてまいりたいと考えております。また、今後も新たに実施のご要望がございましたら、その場所の状況や利用形態等を踏まえつつ、個別に相談をさせていただきたいと思っております。

私からの説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑ございませんか。

7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 里山再生という言葉から、私たちは奥山ではなくて人が入れる可能性がある山、あんまり高い山ではなくて、普通のシイタケの原木だったり、あとはタケノコだったり、そういった山を全てやってもらえるのかなと思っていました。これグリーンフィールドの場合は後ろにモデルと入るからテストケースかなと、そういったところでテストをしながら、どういう除染がいいのかなと、そう解釈していました。結局今の説明でも分かるように、林野庁だったり、環境省だったり、復興庁だったり、あとはどこだ、今は県もやっているのかな、県と林野庁がやったり、いろいろやっていて、私らは頭の中でこんがらがっている。ちゃんとやってもらいたいんだけど、どこにどういうお願いの仕方をすればいいのか分からない。ちゃんとグリーンフィールドでテストでやったんなら、その結果を用いて大倉山をやってくれるとか、そういう具体的なものが何もないから分かりづらいんだけど、これ本当に横断的に、あっちだ、こっちだと引っ張り回されるのではなくて、ここと話すればこの問題は全て解決するのだよというようなやり方をやってもらいたいんだけど、西村さん、そういう統一的な考えないですか。

○議長（高橋 実君） 西村参事官。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官（西村 学君） ご質問ありがとうございます。里山再生事業という名称が一般的な里山全般に実施するというような誤解を生じさせているというのは、私もその点について反省しております。モデル事業も含めた里山再生事業でございますけれども、森林除染の範囲として住民の方々が身近に散策等をできる空間を、除染、線量測定、森林整備を行うこ

とによって自然の触れ合いの場というのを再生していくというようなコンセプトで事業を実施いたしているものでございます。森林除染に関しては除染の考え方、後ほど環境省からご説明があるかもしれませんが、その除染の考え方の中の範囲内で住民の方の自然触れ合いの場を再生するという、そういうコンセプトで実施をさせていただいているものでございます。この里山再生事業が全てにおいていろんな里山ができるというような誤解を生じさせていることについては、反省をさせていただきます。

以上です。

○議長（高橋 実君） 参事官補佐、坂本さん。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官補佐（坂本 充君） 大倉山のお話がありましたので、ご報告申し上げます。

先般9月1日付でございますが、富岡町長より当庁宛て、里山再生事業の要望についてということで大倉山森林公園に係る採択希望、事業要望地区としての書類の提出をいただいております。

以上、ご報告でございます。

○議長（高橋 実君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） どこかが窓口になって、里山再生事業とはこういうものだよと、その定義だな。それとモデル事業はこういうのがモデルだよと。環境省でやっている除染は、本格除染は自宅から20メートルしかやらなくて、山までやらないよとか、そういう分かりやすいことをちゃんと説明してくれないと、さっき西村さんおっしゃったように私たちはついていけない。結局里山というのは奥山ではないから、崖の深いところまで除染をしてくれとは言わないけれども、子供たちが立ち入る、キノコだったり、シイタケだったり、タケノコだったり、そういうちょっとした裏山、宅地みたいな剥ぎ取りまではやらなくても、下草刈りしたり、そういうことぐらいはやってもらえるのかなと。そのためのグリーンフィールドはモデルなのだよと、そう解釈していたので、どうも国からの説明が曖昧だから、期待感持ってしまうと、実はできないのだよと言われたときのこの落差、これが大きいのです。その辺を国はもっと親切丁寧に説明してくれないと誤解を生んでしまうから、こういったものはちゃんと説明してほしいです。

○議長（高橋 実君） 西村参事官。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官（西村 学君） ご指摘ごもっともだと思っております。先ほど福島県から通知が出ているということをお伝えしておりますけれども、丁寧な説明を各現場において実施する必要があると感じました。引き続きこの事業の誤解がないように、しっかりと運営させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

○議長（高橋 実君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） それと、最初に申し上げた里山の再生に関する事業は窓口がどこどこだよと、これは環境省、これは林野庁、これは例えば復興庁とか、そういうたらい回しのような訳の分からな

い話ではなくて、里山に関してはここに聞いてもらえれば全部分かりますと、そういうふうなことにしてもらわないとこっちも混乱してしまう。その辺の考え方もお願いします。

○議長（高橋 実君） 西村参事官。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官（西村 学君） 里山再生事業につきましては、復興庁が全体の調整役ということになっております。この事業の内容、それから実施に向けた相談など、私どもで受け付けております。それを踏まえまして、各省庁の事業の実施の可否、それも含めた調整も私どもで実施させていただきます。

以上です。

○議長（高橋 実君） 8 番、宇佐神幸一君。

○8 番（宇佐神幸一君） 今回里山ということで、ちょっと今の説明を聞きたい点があったのですが、実は最初森林、この富岡地区については常緑樹または針葉樹が多いのです。それで、一回その周りの線量の状況を役場とも確認させていただいたのですが、林野庁と環境省の言い方が最初違ってたのです。林野庁は、もうその木自体は大体1年で線量は下がると、葉っぱが落ちれば落葉樹だったら下がりますけれども、針葉樹も下がると。でも、実際環境省はそれをまともに聞いてはいると思うのですが、ただフォローアップを常に考えていたらその場所を4回も5回もやっている。だから、簡単に言うと木自体の線量の落ち方が考え方が間違っているのではないかということで、あのときに里山構想が始まったときにどうやったら人が集まったときもそうですが、個人の近くの山にしてもやったほうがいいだろうと、その意見がはっきり言ってまとまっていなかった。だから、さっき言った相談をしてくださいと言うのですが、そういう状態であった今までで相談することって、窓口でちゃんと答えてくれるのかなというその不安も今ちょっと思うのですが、ちゃんと詳しく連携して話していただけるのですか。まだそういう地域はいっぱいあるのです。だから、相談してくださいと言うけれども、そこまで詳しく指導してくれるのですか。今までされていない。

○副議長（堀本典明君） 復興庁、坂本さん、どうぞ。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官補佐（坂本 充君） ご質問ありがとうございます。里山再生事業につきましては窓口は私ども復興庁であるということは、西村から申し上げさせていただいているところでございます。あと、森林の除染については、個別の除染、里山再生事業の受付並びに相談、ここに書いてあることについては、私ども復興庁であることは間違いないのですけれども、このスキームそのものが、西村からご説明させていただきましたように、既存の事業の組合せという成り立ちでもございます。つきましては、森林の除染の個別のご相談ということでしたら、森林の除染というか、除染を担当しておる環境省の方に私どもからまた照会をかけるという形にもなるかと思えます。まず、除染のご相談ということでしたら、環境省からお話をさせていただきたいと思えます。

以上でございます。

○副議長（堀本典明君） ちょっと今議長いないので。

どうぞ。いいですよ。

8 番、宇佐神幸一君。

○8 番（宇佐神幸一君） 大抵そういうような答えが出るのかなと。今までそういう形で皆さん今までの答えをしてくれなかった。簡単に言うと、里山はグリーンフィールドですよと、それ以外については極端に言えないような行動を取られていた。ただ、実際には富岡町としてはいろんな公園にだって、いろんな集まる場所だって、そういう指導がされていないし、なおかつ除染はしているけれども、森林に対しての細かい指導がなかったようにも感じられる。だから、そういう面で今説明いただいた中のキャンプ場とか、そういうところもやりますよ、ただ実際的に本当に森林という形の除染、再除染というか、再生をやっていただけるのかどうか、今までやっていなかったもので、ちょっと疑問があるのですけれども。

○副議長（堀本典明君） 坂本さん、どうぞ。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官補佐（坂本 充君） 里山再生事業という事業スキームに基づいて、私ども復興庁が受付窓口であるということは間違いございません。このことについて、一旦の採択をする、しない、個別の里山等についていろいろご相談を申し上げますと、私どももいろいろ現地調査等を行った上で、当然復興庁だけが行うのではなくて、林野庁、環境省と共にメニューに応じて、個別の申請相談があったところについては対応させていただくといったことを申し上げています。森林に限らずですけれども、除染というものの物の考え方につきましては、環境省が主として対応しておるといったことでございます。あと、森林再生のところにつきましては山々の問題あるのでしょうけれども、このスキームの中では林野庁のところでも主として担当させていただいて、3つのスキームの中のどれを利用するかといったようなところではご相談させていただきたいと、個別の相談になるかと思えます。

以上でございます。

○議長（高橋 実君） 8 番、宇佐神幸一君。

○8 番（宇佐神幸一君） 今の出た中で関心が出たと私思ったのですが、はっきり言えば森林の除染については環境省が対応しますと言っているのです。対応するとか、そのことに対して今実際的に解除されたところも対応するということで理解してしまっているのですか。それは別。

○議長（高橋 実君） 坂本参事官補佐。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官補佐（坂本 充君） 何度も同じご説明で本当に恐縮なのですけれども、里山再生事業というこの事業スキームの中で私どもが対応させていただけるところ、もしくはモデル事業のところでも対応してきたところというのは復興庁が窓口にさせていただきますし、なおかつこの3つの事業スキームの組合せと申し上げているところ、里山再生事業における除染の担当は……本件、このスキームの中ですけれども、除染の担当は環境省の担当とさせていただいております。線量測定については、復興加速化交付金を使って福島県のところでさせていただいております。

す。あと、森林整備事業につきましては、このスキームの中で林野庁のところで対応させていただいております。モデル事業のところで行われた除染、ここでいうとグリーンフィールド富岡に該当するかどうかと思うのですが、そこの除染のモデル事業で行われたところの成果そのまろもろ等につきましては環境省が対応という形になるかと考えております。あと、おっしゃっておられるような、富岡地域に点在するような一般の皆さんがイメージで浮かばれるような里山というところの除染についても、除染という枠組みの範疇の事業の中身でいうとメインの担当は環境省になるのではなかろうかと考えますが、そこにつきましては……

〔「環境省さんのところでお答えいただけますか」と言う人あり〕

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官補佐（坂本 充君） すみません。

以上でございます。

○議長（高橋 実君） 環境省参事官補佐、鈴木さん。

○環境省環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官室参事官補佐（鈴木祐介君） 改めて、私から環境省の役割分担についてご説明させていただきます。

まず、今復興庁からお話がありましたように、里山再生事業を活用する場合は除染、森林整備、線量測定のうち2つ以上のものを組み合わせて申請いただくという形になりますので、この中で実施される場合は復興庁窓口として申請をいただくという形にまずなります。一方で、例えば除染単品でどこか個別の地域で実施したいといったようなご要望がありましたら環境省の除染という形になりますので、環境省に直接この箇所について少し確認をいただきたいといった形でご相談いただくということになるかと思います。

○議長（高橋 実君） 林野庁でありますか。

林野庁放射性物質影響評価官、鈴木さん。

○林野庁森林整備部研究指導課放射性物質影響評価官（鈴木 明君） 林野庁では、この里山再生事業の中で森林整備ということを担当させていただいておりますが、その中で用いている言葉として森林の再生という言葉を用いさせていただいておりますけれども、皆さんご案内だと思うのですが、特に人工林、人が植えました杉など針葉樹林につきましてはそのまま手入れをしないと混んできてしまって、それまで持っていた森林の水源涵養ですとか災害防止といった機能も低下していつてしまいます。ですので、この放射性物質の影響でなかなか所有者が森林整備をしづらくなっているといったところに我々林野庁が間伐といった、先ほど言った災害防止等の機能を高める作業をして森林の再生を図ると同時に、今回里山再生事業は森林公園のような人の利用するところですので、間伐等することによって、光を入れて明るくして下草が生えるといった景観にも効果がございますので、そういった取組をさせていただいているところでございます。

以上です。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

2 番、佐藤教宏君。

○2 番（佐藤教宏君） 7 番議員とかぶるところあるかと思うのですけれども、里山再生事業という大きな事業という、この文字ではそう感じ取れるところなのですけれども、改めて確認させていただきたいのが環境省等で、復興庁も含めてですけれども、国で里山という定義、こちらでは森林公園、遊歩道、キャンプ場等となっておりますが、こちらで言う里山というのはどういう、具体的にほかにこういったものがあるのでしょうか。

○議長（高橋 実君） 最上参事官補佐。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官補佐（最上祥成君） ご下問ありがとうございます。里山としてどのようなものが定義に入るのかというご質問かと理解しておりますけれども、そもそも里山というものにつきまして一般的な定義としましては、かつて人が積極的に利用してきた、例えば薪を取るために育ててきた林ですとか、そういった人の関与があって成立してきた身近な森林のことを里山と理解をしてございます。私どもが里山再生事業としてターゲットにしておりますのは、そういった里山のうち散策等の利用がなされる、レクリエーションの利用等がなされるところにターゲットを絞って事業を入れさせていただいていると理解をしてございます。

○議長（高橋 実君） 2 番、佐藤教宏君。

○2 番（佐藤教宏君） 私としても、里山というのは人間の影響を受けた生態が存在する山という大きなくくりで書かれているところもあります。町民の方も、こういった里山再生事業なんていう名前がついてしまいますと、そういった概念の下で考えられていると思います。そういった中で、このような森林公園であったりキャンプ場、そういったものだけの整備になっている。この範囲の狭さというのは、これであれば健康づくりの環境整備とか、生涯学習の環境整備、そういったもので済んでしまうのではないかなと思うぐらい里山の範囲が狭いのではないかなと思っております。これだけ里山再生事業と言っているのであれば、国としてもどんどん、最初にやるのこういった森林公園とか先行的にやっていくのはいいと思うのですけれども、行く行くはそういった森林、皆さんが管理してきた森林、森林組合はもう富岡町歴代こうやって管理し続けてきています。人の手が加わっています。そういった中で、そういったところにまで範囲をしっかりと増やしていただいて、事業を進めていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 西村参事官。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官（西村 学君） 里山再生事業という名称と採択しているものの開きがあるというのは、おっしゃるとおりだと思っております。その中で、この里山再生事業につきましては、福島県内48市町村を対象にして今実施しているという状況でございまして、いろいろ多くの要望をいただきながら調整も図っているという状況ですので、現時点ではその採択の要件を変更するというのは考えておりません。しかしながら、森林の除染などいろんなことが関わってきますので、今後どうするかというのは関係省庁と相談していくということになろうかと思っております。

す。

○議長（高橋 実君） 2 番、佐藤教宏君。

○2 番（佐藤教宏君） ありがとうございます。現状このままでいくということなのですが、やはり富岡町でもため池等、毎年のように除染をしてもまた線量が高くなって、また除染をするということがあります。やはり森林と山とかからそういったものがたまりたまっているものだと思います。町民の生活に関わってくるのかと思いますので、範囲はこのような事業の名前をつけているということであればそういったところまで広めてやるべきだと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 環境省、鈴木君。

○環境省環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官室参事官補佐（鈴木祐介君） ご指摘いただきありがとうございます。ため池等、特にため池なんかですと周辺からセシウムが流れ込んで、また水位の高さ等によって線量が変わってくるといったことが報告として上がってきてございます。ご指摘のとおり、そういった線量が再度高くなるところにつきましてはその原因を確認しまして、その地域、地域の個別の事情に合わせまして、こういった形の除染が望ましいのかというところを担当者とよくご相談させていただきながら対応させていただきたいと思っております。

○議長（高橋 実君） 林野庁、鈴木さん。

○林野庁森林整備部研究指導課放射性物質影響評価官（鈴木 明君） 林野庁では、この里山再生事業と似たようなスキームではありますが、一応異なるものとして福島森林再生事業というのをしております。そちらの事業では、やはり間伐と筋工等の土砂流出防止対策を行う事業をしております。そういった取組をしながら、森林からの土砂の流出をできるだけ止めていきたいということで、福島県、それから富岡町を支援していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） ほかにございませんか。

6 番、遠藤一善君。

○6 番（遠藤一善君） 同じことの繰り返しになるので、ちょっと里山の定義ではなくて、グリーンフィールドの周辺一帯のモデル事業の結果でちょっとお聞きしたいのですが、まず最初に定義のところに関わってくるのですが、17ページのところについている下の個人被曝線量のところがあるのですが、これ町役場へのヒアリングを行い、想定された利用時間滞在83分となっているのですが、これはモデル事業を始める平成29年前に、このグリーンフィールドがどう使われるのかというところのモデル形態だと思うのです。グリーンフィールドって震災前に何をしていたか、どう使っていたかということを考えれば、例えばうちの行政区なんかでは、夏休みとかにテントを持っていない人は借りる、持っている人は自分のを持って行って、あそこにテントを張って一晩中のキャンプをして、キャンプをしながらあそこで自然観察したり、カブトムシ探したりとか、ほかのことをやったり、そういうことをしていたのです。それを考えると、我々のところももう既に解除されてどんどんたっています。そうしたらば前の状態に少しでも戻していかなければいけないわけで、その

状態で考えたときに、この結果として17ページのときが一番新しい。この後のやつ出ていないので、令和元年の8月1日の基準日でメッシュでさえも平均で1.15マイクロシーベルトパーアワー、最大では2.26マイクロシーベルトパーアワー、下のサーベイでも平均は0.67マイクロシーベルトパーアワー、最大は2.52マイクロシーベルトパーアワー、この状態で子供会でここでキャンプできないですよ、実際に。皆さんはこれでできるという考えなのですか。どんどん、どんどん仕様がかわっているのだったら、震災前の状況に戻すような仕様でやっていただかないと困るのですけれども、そういう追加でやっていくというのは可能なのですか。今ヒアリングしてください、どのぐらいの想定するのか、どう使いたいのか。使いたいののはもともとのように使いたいわけですから、もともとキャンプとかテントの貸出ししていたのですから、それでもこれでオーケーだとなるでしょう。ならないのだったら、追加でもっと線量を下げるということをやってくれるのでしょうか。

○議長（高橋 実君） 最上参事官補佐。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官補佐（最上祥成君） ご下問ありがとうございました。確かにこれは、あくまでモデル事業時代に町の方々におかれまして実際にどのような利用が見込まれるかというのを想定しながら、どのぐらいの被曝線量になるのかというのをシミュレーションした結果でございまして、今議員ご指摘のとおり、現状ではまた新たな違った利用の形が想定されるということとございまして、その状況をまた伺いまして、どれぐらいの追加被曝線量が見込まれるのか等はシミュレーションし直すということはあるかと思えます。それを踏まえまして、除染の可否等についてはご相談ということになるかと思えます。

○議長（高橋 実君） 6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） 申し訳ないのですけれども、皆さん自分の子供とかいて、ここの地域を我々は普通に戻したいだけです。普通に戻すだけです。子供たちも随分増えてきました。そうしたら、普通に来たら、うちのところのいいところって地元で遠くないところで普通にそういう体験ができるところが一番いいのです。海もある、山もある。本格的な山に行けば、川内まで行けばある。でも、いわゆるさっき言った定義の里山というのはここにあって、グリーンフィールドなんか特にそういうことなのです。実際キャンプもしていた。そうなってくれば、皆さんがただ出して、自分たちのつじつまを合わせるがためにこういう数字を出してきて、これでオーケーでしょうというこれではできないわけですよ。本来の活動ができないのだったら、間違いなくやってくれるのですよね。そこだけを確認したいのです。やってくれるのか。

○議長（高橋 実君） 環境省、鈴木参事官補佐。

○環境省環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官室参事官補佐（鈴木祐介君） ご指摘いただきありがとうございます。今お話にありましたとおり、こちらモデル事業自体に行ったものにつきまして当時の利用形態を想定して試算したものでございます。一方で、ただいま復興庁からもお話ありましたように、今現在の利用形態改めて精査していく中で、例えば今お話ありましたように1日の利

用時間が実はもう少し長いですとか、年間の利用日数がもう少し長いといったことであればその試算の仕方も変わってまいりまして、その結果、年間追加被曝線量1ミリシーベルトを超えるような試算ができるような状況であれば追加の除染ということも可能かと思いますので、そういった利用形態であったり、そういったものを含めてよくご相談させていただきながら、我々でも取れる対応を取ってまいりたいと思っています。

○議長（高橋 実君） 6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） 通常のキャンプというのはテントですから、夜は家の中にいるから、夜の部分は減るからトータルとして時間が減る。1ミリに対して24時間ではなくて、違う時間で計算するというのはこれは成り立たないですからね。キャンプって、朝集合して、夜いて、最低のやつでね。普通子供会で行くときはそうするのです。朝御飯作ったり、お昼御飯作ったり、夕飯作ったりいろいろするので。だから、24時間で計算しないと駄目ですよ、線量は。親御さんであれば、そういう感覚ですからね。皆さんの言っている科学的根拠で年間1ミリで、そこに1日しか行かないのだから、1晩しかいないのだから大丈夫でしょうなんて言って子育てができるのだったら誰も苦労しないですよ。普通に返してくればいいのです。基本的に今私の言っていることにきちっと対応ができないのだったら、このスキームが根本的に若干不具合があるのです。そしたら、このとおりにやりますではないのです。もう何年もたっているのですよ、モデルやって、今実践して変わってきている。どんどん、どんどん復興に向かって変わってきているのです。変わってきていたら、皆様方も変わっていただかないと。ハードルが高くなっているのですよ、いろいろ人が戻ってくるといことは。それがだって住環境の整備でしょう。それに向かっていってもらわないといけないわけです。自分たちのこういう結果できちっと、ああ、これではちょっとまずいなというところが出てきたらそれを変えてくれるのが皆さんのお仕事です。ぜひとも我々を普通にここで環境に戻すようなふうにしていきたいのです。それも含めてお願いします。

○議長（高橋 実君） 最上さん。

○復興庁復興本庁原子力災害復興班参事官補佐（最上祥成君） ご指摘ありがとうございます。実際にそのフィールドを利用することでどのぐらいの追加被曝線量に至るかといいますのは、必ずしもその1回こっきりの利用を想定したものではございませんで、現地に何時間いるのか、現地の空間線量率が幾つなのか、そして年間何回利用されるのか、そういった細かなところも拾いながら、実際にそこを利用される方々がどれぐらい追加被曝線量を受けるのか、そういったことをきちんとシミュレーションした上で除染の要否というものを考えているというところでございますので、このグリーンフィールド富岡で今後利活用されるその実態等に合わせまして細かにお話を伺いながら、現地の状況を踏まえながら対応を検討させていただきたいということでございます。

○議長（高橋 実君） 6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） 線量が下がっていないところに子供は来ません。利活用の実態ではありませ

ん。これは卵と鶏の話ではないです。線量が下がっていないところに子供連れでキャンプはできないです。それだけははっきり覚えておいてください。

○議長（高橋 実君） 返答を返されないのだったら、ほかにありますか。

1 番、堀本典明君。

○1 番（堀本典明君） 里山再生モデル事業、これまで何度か議会からも質問させていただいて、ともに今回初めてご説明いただいたという感じしています。それで、復興庁が今主にやられている里山再生事業の現在の事業対象がこういうものですよというのは理解しましたが、我々が今まで言っていた、我々だけではないし、町の執行部もそうでしょうし、町民が思い描いているのは、環境省の除染の対象外になっている住宅地から20メートル以上、道路から20メートル以上離れているところ、要は除染していただけないところの森林を除染していただけるものだと思ってやっていた、それはちょっと説明不足だったというようなお話があったので、それを掘り返してもしょうがないのですが、そういう要望が非常に多いということで、今後、今後といってもそう遠くないうちに、復興庁なのか、今日原子力災害現地対策本部の師田副本部長もいらっしゃっているので、国でそういう要望があって、除染していただければ線量が下がって住民の安心につながるのです、間違いなく。ですから、そういうところを求めているので、そういうところまで手を伸ばしていただけるようにしっかりと議論をもう一度し直ししていただいて、そういったところの除染等々が進むような方向性を出していただきたいのですが、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 環境省、鈴木参事官補佐。

○環境省環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官室参事官補佐（鈴木祐介君） ご指摘いただきましてありがとうございます。ご承知のとおり、現在の国の方針としましては追加被曝線量1ミリシーベルトという基準の下、生活環境上でその基準を満たすように除染を実施しているところでございます。ご意見につきましては、大変重く受け止めてございます。

○議長（高橋 実君） 1 番、堀本典明君。

○1 番（堀本典明君） そうなのですが、例えば自分の家の裏に山がありましたよと。今までだったらそこに行って、先ほどおっしゃいましたけれども、タケノコ、ちょっと今タケノコ線量高いので、なかなかタケノコ掘りしません、そういったのがもう阻害されている状況なので、ぜひそれを開放していただきたいというところでしっかり議論していただいて、そういう要望が間違いなく強いのです。除染していただければ必ず下がります。安心につながるのです。もしかすると住民帰還にもつながるかもしれません。その辺りを、今のこの事業対象では不満を持っている町民もいるということをしっかり考えていただきながら、除染もだんだんと少なくなっているはずなのです、除染のエリアが。ですから、そういったところにもぜひ手を広げていただきたい。それをしっかり議論していただきたいというお話です。ぜひ前向きに検討していただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 環境省参事官補佐。

○環境省環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官室参事官補佐（鈴木祐介君）　ご指摘ありがとうございます。ご指摘の点のように、こちらの生活環境をどのように考えるかという点になってまいるかと思いますが、その点につきましてどこまでを生活環境とみなすかというところはいろんな余地があるところだと認識しております。ご指摘については、大変重く受け止めた上で持ち帰らせていただきます。

○議長（高橋　実君）　1番、堀本典明君。

○1番（堀本典明君）　里山再生事業の件では、今までの考え方と隔たりがあるというか、ちょっと違いがあったというのは分かったと思うのですが、これ町ではどう考えて、今後どう対応していくか、その辺りのお考えをお聞かせください。

○議長（高橋　実君）　産業振興課長。

○産業振興課長（坂本隆広君）　産業振興課では、現在先ほど説明ありましたが、林野庁が進める間伐を中心にグリーンフィールド周辺の森林整備を進めております。平成29年度からモデル事業としてスタートしまして、今年で6年目になります。これまでにグリーンフィールド周辺の森林整備の面積については、約24ヘクタールということになります。今回3年目ということで、先ほども町長から大倉山森林公園の要望が出たということがありましたが、まず森林整備の方向性につきましては、これまで里山再生事業でやってきたものを福島森林再生事業にエリア内の森林整備を切替えをしてやっていきたいと考えております。その理由としては、来年度から小浜地区については福島森林再生事業の地権者への要望調査、または現地への乗り込みというような年になっております。里山再生事業を進めていくと、そのエリアだけが取り残されるような状況が出ますので、町としては小浜地区の森林については一括で間伐等の整備を完了させたいということでございます。それ以降、里山再生事業の対象エリアについては、現在町内では大倉山森林公園について該当するだろうということで、今回9月1日付で国に要望を出しております。内容については、環境省の除染、林野庁の森林整備、県の放射線の測定ということで、3つセットで今のところ要望をさせていただいております。

以上です。

○議長（高橋　実君）　補足で竹原副町長あれば。

竹原副町長。

○副町長（竹原信也君）　先ほど来復興庁から説明のありました里山再生事業、こちら対象がもう限定されているということがここで認識できたと思います。我々も里山というのは議員の皆さんと同じく、我々が普通にカブトムシを捕ったり、そういうところに入っていく、そういうところもやってくれるのだということで期待していたところでございますが、今年に入って3か所ほど復興庁に申請したところ、やはり森林公園、遊歩道、そういうところのみが対象だということで、我々の考えた里山というのは対象外だとはっきり言われましたので、こちらにつきましてはやれるところはやっていく、今産業振興課長からありましたとおり、この里山再生事業としてやれるところはそこでやってい

く。また、町としてはやはりこちら、たまにしか行かない森林公園でなくて、我々はそこに住んでいる、戻ってくる、そういうところの山林を除染をしていただかなくてはいけない、線量低減をしなくてはいけないということで、これからも引き続き環境省の除染事業へ、今現在もフォローアップというところで20メートルを超えたところ、線量が高いというところでやっていただいております。そちらをフォローアップではなくて、そもそも除染として20メートルにこだわることなくまずはやっていただく。それでも駄目なら今のフォローアップも仕方ないと思いますが、まずは我々は遊びに行ったりするところではなくて、生活するところの線量を下げなくてはいけない。まさに最初に書いてある住民が身近に、住居周辺の里山と書いてあるのです。大倉山とか、そういうところは住居周辺でないのです。そういうところにだまされた大変悔しい思いをしております。そういうところもただ我々としては、議員の皆さんと一緒に線量低減に向けて進めなくてはいけないので、やれるべきところからやっていく。あとはこの里山再生、将来に向けて検討していくという話をされていますが、今なのです。今やらなくてははいけないです。ですから、今やれるところから進めていきたいと思いますので、今町としてはそんな考えでおりますので、どうぞご理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 原子力災害現地対策本部、師田副本部長、よろしく。

師田副本部長。

○内閣府原子力災害現地対策本部副本部長（師田晃彦君） 状況は伺いましたので、よく町とも相談させていただきまして、何ができるか考えてまいります。

○議長（高橋 実君） こういう声がいっぱいありますので、よろしくお願いいたします。

ほかにありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） これをもって質疑を終了いたします。

以上をもちまして付議事件2、里山再生事業についてを終わります。

説明者の入替えのため暫時休議します。

休 議 （午後 3時10分）

再 開 （午後 3時14分）

○議長（高橋 実君） ちょっと早いですけれども、再開いたします。

次に、付議事件3、帰還困難区域の再生に向けた取組についての説明を企画課長より求めます。

企画課長。

○企画課長（原田徳仁君） それでは、帰還困難区域の再生に向けた取組を説明させていただきたいと思います。

本日は帰還困難区域を特定復興再生拠点区域の避難指示解除に向けた取組と、小良ヶ浜地区、深谷地区の再生に向けた取組の2つに分けた説明であり、今後の町政懇談会や意見交換会でも同様の説明

をいたし、意見を伺う予定でありますので、よろしくお願いいたします。それでは、着席にて説明させていただきます。

初めに、特定復興再生拠点区域について説明いたします。3ページを御覧いただきたいと思います。特定復興再生拠点区域につきましては、避難指示の根幹をなす除染解体作業やインフラ整備の進捗が見られ、またその後の計画があること、そのほかの工事等につきましても年度内の整備が完了予定であることから、令和5年春頃の避難指示解除が現実味を帯びるようになりました。避難指示解除目標まで約半年となった現在は、安全、安心を築き、住民生活の基本的な支えを整備するとともに、残された課題の解決や準備宿泊者などからのご意見等への対応を重点的に取り組む時期と考えております。このため、11月に開催予定の町政懇談会では、特定復興再生拠点区域に関する意見交換を主とした懇談会に、また準備宿泊者を対象とする相談会などを行い、広くご意見を伺いながら、令和5年春頃の避難指示の解除の実現に向けて取り組んでまいります。なお、これまでも申し上げますが、避難指示解除が本格復興の始まりでありますので、避難指示解除が実現された後においても国のご支援をいただきながら復興施策を進めてまいりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

続きまして、資料4ページから11ページまでは現在の状況や主な取組をまとめました。ページ右上には、それぞれの担当課を記載しておりますので、ご確認いただければと思っております。また、これまでに説明いたしました内容もございますので、私からはかいつまんで説明をさせていただきたいと思います。

それでは、4ページを御覧いただきたいと思います。特定復興再生拠点区域では、立入規制緩和を今年1月26日に、準備宿泊を4月11日から開始し、9月1日時点での準備宿泊登録者数は17世帯28人となっております。準備宿泊開始から約1か月後には相談会を開催しており、第2回目の相談会を11月21日に開催することで関係機関と調整を進めております。また、11月開催の町政懇談会では、本日の全員協議会と同様に拠点区域の避難指示解除に向けた取組などを説明する予定であります。

続きまして、5ページを御覧いただきたいと思います。放射線不安対策につきましては、環境省の説明と重複いたしますので、割愛させていただきますが、下段、モニタリングの集計やその通知などは12月以降順次お示しすることができるよう取り組んでおります。

続きまして、6ページを御覧いただきたいと思います。インフラ復旧として、上水道は避難指示解除済み区域及び拠点区域では96%の復旧率であり、現在は町道市ノ沢線の配水管布設工事を進め、9月30日に竣工予定となっております。そのほかの未復旧箇所についても順次取り組んでおるということを伺っております。また、参考までに拠点区域内における開栓申込み件数等を記載いたしましたので、ご確認をいただければと思います。下水道や道路につきましては、復旧工事等を順調に進めていたところではありますが、今年の3月16日の地震によりまして被災がありましたので、現在はそれらの復旧工事に着手し、年度内の完了予定となっております。

次に、7ページを御覧いただきたいと思います。安全確保の防犯、防火対策といたしましては、夜の森消防屯所新築工事を進めるとともに、今後は避難指示解除に合わせた夜の森駐在所の再開を双葉警察署に要望する予定であります。そのほかの取組といたしましては、夜の森公園周辺等の道路照明は年度内の復旧完了を、準備宿泊者への積算線量計や緊急通報システムの貸出しにつきましては記載のとおりでございます。

続きまして、8ページを御覧いただきたいと思います。生活関連サービスといたしましては、移動販売にご協力いただいている企業と社会福祉協議会や地域包括支援センターとで、拠点区域内の販売ルートを検討しており、見守り機能等にもご協力いただけるよう、今後包括連携に向けた協議を進めております。また、日本郵便株式会社とは7月に包括的連携に関する協定を締結いたし、見守り活動の拡充を図っておるところでございます。その活動範囲を広める意味合いも込めて、今後は拠点区域内にある主要な郵便ポストの再開に向けた協議を開始したいと考えてございます。

次に、9ページを御覧いただきたいと思います。住環境等につきましては、町営住宅新田団地の入居募集開始や夜の森公園の整備を令和5年3月を目指しております。営農再開の準備に向けては、試験栽培を10か所で実施、事業再開については3社が拠点区域内で事業を再開してございます。

次に、10ページを御覧いただきたいと思います。こちらは、準備宿泊開始前の説明会や開始後の相談会でのご意見をまとめましたので、後ほど御覧いただければと思っております。

次に、11ページを御覧いただきたいと思います。国との個別協議案件といたしまして、準備宿泊対象者の拡大について協議を進めてまいりました。協議内容は、対象者に新規転入予定者を追加するものでございます。下段四角囲みの参考1、ふるさとへの帰還に向けた準備のための宿泊についての制度趣旨では、避難指示が解除された場合に円滑に生活を再開としておりますが、制度設計の平成25年時と状況が大きく変化していることから協議を進めた結果、避難指示解除後も引き続き生活する予定の方々であり、拠点区域内への住民票の異動は解除後であることをご理解いただいた上で、対象者とする柔軟な対応をしていただいたところでございます。新たな方々が準備宿泊を行う手順につきましては、中段記載のとおり、住民課への相談と住民課が現況の説明をし、ご理解いただくこと、住民課と内閣府がその状況を共有し、受付の準備を進め、最後に転入予定者が準備宿泊コールセンターに申し込むという手順で進めてまいります。今後も状況に応じ、国との協議を進めてまいります。

次に、12ページを御覧いただきたいと思います。本日拠点区域の状況や町政懇談会開催の予定を説明いたしました。10月以降でございますが、準備宿泊者宅への戸別訪問や町政懇談会でのご意見などをいただき、12月開催の全員協議会にて再度説明する機会をいただきたいと思っております。なお、年明け以降についてでございますが、前回の町が一部避難指示解除したときの行程やほか自治体の避難指示解除行程を参考に記載いたしましたので、ご確認をお願いいたします。

13ページから15ページでございますが、こちらは参考資料として拠点区域、それから14ページが無人サーベイによる空間線量率の推移、15ページが各自治体における特定復興再生拠点区域の避難指示

解除を添付いたしましたので、後ほど御覧いただきたいと思います。以上で拠点区域につきましては説明を終わります。

続きまして、小良ヶ浜地区、深谷地区の再生に向けた取組を説明させていただきます。17ページを御覧いただきたいと思います。これまでの取組といたしましては、令和2年12月に外縁除染をこの全員協議会で提示をさせていただき、令和3年8月には解除に関する政府方針が示され、今年6月に第1回目の意見交換会を開催いたしました。第2回目の意見交換会を10月上旬でたゞいま計画しております。

18ページにおきましては、第1回目の意見交換会で寄せられたご意見などを取りまとめましたので、後ほど御覧いただきたいと思います。なお、こちらにつきましては、今年8月号の広報にも記載しているところでございます。

19ページには、小良ヶ浜地区、深谷地区の再生に向けた国との個別協議案件として、ただいま墓地や集会所、アクセス道路等の避難指示解除に向けた協議を進めております。墓地や集会所、アクセス道路等につきましては、拠点として復興再生計画に位置づけ、避難指示解除を目指しており、外縁除染の準備を進めているところでございます。道路等の避難指示解除がなされれば、JR常磐線夜ノ森駅周辺のように、地区の面的な除染が行われる前であっても自由な往来が可能となり、まだ制度はできておりませんが、地区の面的除染の実施に向けた足がかりになるものと考えております。また、外縁除染を終えた宅地等につきましては居住することができないことから、避難指示解除については今後の協議、検討となります。なお、今ほどの外縁除染済みとなった土地でございしますが、有効活用したいという声も多少ながら伺っております。この件につきましても、立入規制緩和について今後協議を進めてまいります。宅地等の避難指示解除に向けては、現在の制度ですと令和3年夏の政府方針に基づく帰還意向の確認でございますので、速やかに行い、早期帰還の実現に取り組むとともに、全域除染による避難指示解除につきましては引き続き国に求めてまいります。

20ページ、21ページでございしますが、こちらは令和3年度に実施いたしました住民意向調査の集計結果のうち、一時立入りの頻度や帰還意向を集計したものを記載しましたので、後ほど御覧いただきたいと思います。

説明は以上となります。特定復興再生拠点区域の避難指示解除、小良ヶ浜地区、深谷地区の早期再生に向け、国や県関係機関と共に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○議長（高橋 実君） 説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑ございませんか。

7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 解除も初めてでないので、前に解除したときどういうことがトラブったかとか、どういう問題点があったか、そういったものを参考にしながらやれば、そんなにあとは今準備宿泊する人たちに意見を聞いてもそう伺っているので、そんなに心配はしていないのですけれども、た

だちょっとこれは書いたほうがいいのではないかなというのはあるので、この19ページ、国との個別協議案件というところなのですけれども、墓地や集会所、アクセス道路等の避難指示解除に向けて、これ確かに避難指示解除なのだけれども、JR常磐線夜ノ森駅及びその周辺アクセス道路のように自由な往来が可能、この自由な往来が可能を避難指示解除とイコールにしてしまうと白地地区で避難指示解除があるのかと。結局これ今度の復興拠点内の話、線と点の話から、線と点の白地を避難指示解除という言葉は使わないほうが混乱しないのではないかなと思うのです。やはり小良ヶ浜、深谷地区の人は外縁除染で解体除染が終わったところは避難指示解除になるみたいだよという、それは住むことはできない、通行することができるだけなのだよと付け加えないと理解してもらえないので、それは言葉のあやかかもしれないけれども、別な言葉を使って通行可能にはなるけれども、避難指示解除ではない、これはちょっと難しいけれども、その辺用語を選んだらどうかなと思うんですが、どうでしょうか。

○議長（高橋 実君） 企画課長。

○企画課長（原田徳仁君） 丁寧に説明させていただければ、道路等を通るというのは2つあるかと思います。国道6号があったとおり、特別通過ということもございます。特別通過交通には、徒歩と自転車走行ができないというもの、自由な往来というのはその徒歩、自転車も通行できるということで、そうなれば避難指示解除となります。私この資料で書いたのは、避難指示解除に向けてということ、この道路、墓地、集会所、こちらを避難指示解除していくということを目指しているということでございますので、解除後は自由な往来ができるという解釈でございます。ですので、表現ぶりはきちんと丁寧に説明しなければいけないという反省ではございますが、道路とかお墓等については解除するものの、その拠点に付随する外縁除染実施した土地は、宅地等は解除しないというものでございます。もし表現の仕方が分かりづらいというものであれば、再度こっちを修正させていただいて、小良ヶ浜地区、深谷地区の両圏でございますので、この件につきましては両地区に対して説明をしたいと思います。

以上でございます。

○議長（高橋 実君） 7番、安藤正純君。

○7番（安藤正純君） 今課長の説明で私は理解できるのだけれども、確かに外縁で宅地を解体除染したところが避難指示解除となると、物置でも、何か小さい建物でも造ればそこに住めるのかなと誤解を生まないために、括弧書きでも、注意書きでも何でも結構ですから、これは人が住めるような解除ではありませんと。通行ができる解除ですとか、何かそういうただし書のようなものがあつたほうが優しいのかなと思うので、その辺をこの用語を使うときは注意したほうがいいかなと思いますので、その辺をお願いします。

○議長（高橋 実君） 企画課長。

○企画課長（原田徳仁君） ご指導ありがとうございます。文言の表現等については、これからはち

よっと精査してまいります。ありがとうございます。

○議長（高橋 実君） 2番、佐藤教宏君。

○2番（佐藤教宏君） 説明資料で理解させていただいたところなのですが、今回環境省からもありましたけれども、6号東側の田んぼ、こちらにつきまして令和5年度から除染等して、地権者の方に返地していくという話もありましたが、それぞれ返地されてしまうと今後の町づくりについて有効な土地活用ができなくなってしまうのではないかなという懸念があるのですが、その辺の今後の町の動きとしてはどのように考えているのでしょうか。

○議長（高橋 実君） 企画課長。

○企画課長（原田徳仁君） ありがとうございます。この6号東側の土地、拠点区域とされているところ、それからその東側という部分の土地につきましては、国際研究教育拠点の候補地として町として提案させていただき、残念ながら選定されなかったという部分でございます。今後の土地関係の活用については、引き続き評価という形で見ますと非常によいところだというのは揺るがないところだと思っています。ですので、こちらは産業団地の方向性で示していきたいと考えてございます。一方で環境省では、その東側にある仮置場については当面の間使わせていただきたいという話もございますので、そのバランスということもあります。一方で、今ほど産業団地という話をさせていただきましたが、前回第1回目の意見交換の際に私は農業をやりたいという方も出ました。ですので、こちらは地権者といろいろこれから丁寧にお話をさせていただかなければいけないなと思っておりますので、第2回目、第3回目と続きますので、こちらについては丁寧に説明をさせていただき、またどこでどんな形に進めていくかということも詰めてまいりたいと思います。

○議長（高橋 実君） 高野副町長。

○副町長（高野 剛君） 少し追加でご説明をさせていただければと思います。

国道6号東側の土地の返地という点につきましては、そこはまだこれからの議論と考えております。この国道6号東側の土地の利活用についてでありますけれども、こちらについては交通アクセスですとか、地理的な優位性ですとか、非常に高いポテンシャルを持っていると思っております。ですので、この土地を最大限活用していただける案件、ビジネスなのか、研究開発なのかというところはあるかと思っておりますけれども、こうしたところを今後も積極的に相手を見つけていく、こちらから当たっていくということを考えております。引き続きよろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 2番、佐藤教宏君。

○2番（佐藤教宏君） やはり白地地区、小良ヶ浜、深谷地区の住民にとっては、あそこの土地というのは望みの一つかなというところもございます。そういったところでばらばらに返地されて農地にしてしまうとか、ばらばらに住民に返してしまうということがいいのか。もしくはもう前もって住民の方と相談して、ここの土地は町として使わせていただきたいということでお約束をするなり、地権者が不安に思わない、そして小良ヶ浜、深谷地区の方々が望みを持てる町づくりをしていただきたい

と思いますが、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 町長。

○町長（山本育男君） 今2番議員がおっしゃるとおり、我々も具体的にどういうものができるか、今後どういう利用ができるか、ちょっと今庁内で相談をしております。今ほど副町長、企画課長からあったように、産業団地に持っていくか、それとも商業関係の施設にするか、それから下は農業団地みたいなものにつくるか、この辺の検討を今始めたところでありますので、いずれにしてもあの地区の地権者の方々には不便をかけないように、また不満を与えないように、鋭意皆さんと相談しながら進めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

6番、遠藤一善君。

○6番（遠藤一善君） 8ページ、復興に向けた主な取組のところでちょっと確認をしたいのですけれども、ここで買物環境とか郵便のところで、まず買物環境は復興に向けて最終的にどうするつもりなのか。これ、今避難指示解除の地域では移動販売を実施中と書いてあるのですけれども、避難指示解除のところにはそれ以外にもちゃんとお店があるわけですが、復興拠点の中には今のところ何にも計画が示されていないのですけれども、どう考えているのかということ。

それから、郵便なのですが、実施可能という細い字で書いてあるのですけれども、こちら側の解除のときもそうだったのですけれども、完全に解除するまで郵便物運んでもらえなかったのです。それは、役場もみんな広野まで取りに行っていたり、いろんなことをしていたので、覚えていると思うのですけれども、この11ページのところの（3）で新規転入予定者を入れていただいたのはいいのですけれども、遠くから来たりする人だとなかなか手紙というか、郵便物を取りに行けるところ持っていればいいのですけれども、なかったりするとやっぱりちょっとまたあるので、できればせっかくもうここまで来ているので、日本郵便株式会社と話ししていただいて、少しでも早い時期にこの郵便を配達してもらえるようにしていただけると非常にありがたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 産業振興課長。

○産業振興課長（坂本隆広君） まず、買物環境等の取組の件ですが、こちらにつきましては現在町として誘致が決定したものについては特にありません。町外の企業等からかなり相談は受けておりますが、なかなか今の人口と町の状況を見て、そこに改めて店舗を構えるというところはまだ出てきておりません。現在のところ、こちらに書いてある移動販売のご協力をいただきながら、環境の整備を進めていきたいとは考えております。町としましても、引き続き拠点内の企業の誘致については力を入れてやっていきたいと思っておりますので、ご理解をお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（高橋 実君） 企画課長。

○企画課長（原田徳仁君） 私から郵便関係で説明させていただきます。

今ほど具体的な事例をご提案いただきました。ご提案というか、問題点があるのだということをいただきました。この件につきましては、日本郵便株式会社と詰めさせていただき、対応を詰めてまいりたいと思います。できるだけ頑張っていきたいと思います。ありがとうございます。

○議長（高橋 実君） 竹原副町長。

○副町長（竹原信也君） 買物環境について、若干今町で考えているところを補足させていただきたいと思います。

今回の特定復興再生拠点内にある、桜とか大変優良な住宅地を有しているところでございます。こちらにつきましては、現在企画課で貸家の補助とか人に使っていただける、そういうような補助も行っており、基本的にはこちら定住化を目指していきたい……特に定住化を目指していきたい、活用していきたいということもございますので、当面についてはこの移動販売が主になろうかと思いますが、もう既にこちらやはりどこかが牽引しなくてはいけないということで、買物環境については公設公営なのか、公設民営で若干支援をするとか、そういうところを行わないといけない状況であるということと分かっておりますので、今庁舎内でそちらを進めているところでございます。今後やはり移動ではなくて、順次できればできるだけ早く固定的な買物環境を含めたものを整備していきたいと考えております。

以上です。

○議長（高橋 実君） 産業振興課長、何かある。

○産業振興課長（坂本隆広君） ありません。

○議長（高橋 実君） 6 番、遠藤一善君。

○6 番（遠藤一善君） 帰還困難区域だったということで、特定復興拠点なかなか厳しいものはあろうかと思うのですが、富岡町全体を盛り上げていくためには、やはりこの復興拠点がきちっとして、復興拠点にそれなりに人が戻ることによって拠点外のところに進んでいくということも必要だと思うので、ぜひとも復興拠点、帰還困難区域だったからといって見捨てるようなことがないようにお願いしたいと思います。

それから、買物環境も今副町長から話があったので、ちょっと安心したのですが、当然ですが、ベニマルのようなああいう大きなものをもう一個つくってくれとは言いません。当然町の中で1つなので、それは町の全体計画としていいと思うのですが、そうではなければ民間のそういうところ、固定でそこに行けば買物ができるという環境がやっぱりどうしても必要になってくるので、大きく買うときはこちらまで来ればいいのですが、それは生活の利便性というのをきちっと取っていただきたいということがあります。

それから、もう一点、ちょっと企画には出てなかったのですが、この特定復興の今回のエリアの中には基本住宅しか建てれないエリアが結構あるのはご存じだと思うのですが、これだけ

の拠点の中で場所によって住宅しか建てられないというのは非常に……語弊がありました。50平米以内の店舗併用住宅は建てられます。だけれども、先ほどもあったように住宅は住宅の補助、産業というか、事業に関するものは事業に関する補助なので、店舗併用住居をつくるというのはなかなか補助金の申請も大変ですし、いろいろあるのです。その中で、住宅だけしか造れないというところで考えていくと、当然住宅地だけのところは残さなければいけないとは思うのですけれども、これから事務所とかそういうことも考えていったときに面積が広過ぎるので、その辺もちゃんと各課町の全体として考えていただきたいのですけれども、そこは全然企画では入っていなかったですね。

○議長（高橋 実君） 都市整備課長。

○都市整備課長（志賀智秀君） 今のご質問、用途地域の変更のことかと思うのですが、現在都市整備課では用途地域の変更について協議をしております、地元行政区のご意見等も伺いながら今後決めていきたいと。今検討中でございます。

○議長（高橋 実君） 健康づくり課長、リフレ何ぼか進んでいるのだったらば。

健康づくり課長。

○健康づくり課長（遠藤博生君） ただいま議長からお話ありました旧リフレ富岡跡地についてでございます。これまで申し上げておりましたとおり、もともと計画をしておったような形では進みにくいというようなことですので、これまで町長からも答弁等ありましたが、段階的な整備ということも今視野に入れつつ、どういった形で活用できるかというのを検討しております。庁舎内の協議に現在入ったところでございますので、今後ご説明できる内容につきましては全員協議会等でご説明をしてみたいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

3番、佐藤啓憲君。

○3番（佐藤啓憲君） 20ページなのですが、住民意向調査の中で一時立入りについて、人数的には30%であるとか、あとは規制緩和希望しているということなのですが、2年ぐらい前一般質問させていただいて、スクリーニング場、利便性のために今の波倉にあったやつを夜の森の近辺に持ってきたほうがいいのではないかということを提案したのですが、ちょっとその点についてはいろいろ事情もあったのですが、この機会ですので、町としても考えていったほうがいいと思うのですが、よろしくお願いします。

○議長（高橋 実君） 住民課長。

○住民課長（猪狩 力君） スクリーニング場の件につきましては、今国と協議を進めているところでございまして、方針としましては幾つか場所の検討をしていただいた中で、旧富岡消防署跡地ということは今集約しまして、今後は国で財政的なものとか、そういったものをクリアしつつ、それがクリアされれば12月の議会等で全員協議会等でご説明をしたいと考えているところです。

以上です。

○議長（高橋 実君） 3番、佐藤啓憲君。

○3番（佐藤啓憲君） 移転を検討されているということで、特に小良ヶ浜、深谷地区の方の利便性に貢献できると思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） 町長、ちょっとまとめてくれ。

町長。

○町長（山本育男君） 今議長からまとめてくれと言われましたが、とにかく帰還困難区域の再生に向けた取組については、今後リフレの跡地の活用も視野に入れて、そしてなるべく住民の帰還が進むように施策を進めていきたいと考えております。それから、いろいろと企業によってはアパートを使いたい、そういった企業も手を挙げてございますので、いろいろとそういう企業が入ってくれば人も増えてくると思っております。それから、買物環境につきましてもコンビニとかにいろいろあちこちアプローチはしているのですが、やはりどうしても人が入ってくるのが見込めないということで、なかなか手を挙げてもらえないというのが現状でありますので、まずはいかにして人を呼び込んでいくかということを考えていきたいと思っております。そのためには、いろいろ議員の皆様方にもアドバイスを受けながら今後は進めていく必要があるだろうと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。また、今ほどあった佐藤議員からあった消防署のスクリーニング場、これはたしか水洗いだけは向こうの毛萱に行ってもらうようになりますが、あとのものは全部来るということで今進めていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（高橋 実君） ほかないですね。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） これをもって質疑を終了いたします。

以上をもちまして付議事件3、帰還困難区域の再生に向けた取組についてを終わりますが、師田さん、今いろいろ話聞いていて、どういうことを手短に協力を国はしてもらえるのだ。

○議長（高橋 実君） 師田副本部長。

○内閣府原子力災害現地対策本部副本部長（師田晃彦君） やはり夜の森をどうやって魅力のある町に戻していくかというのが最大だと思っております、我々は様々な支援策はご用意させていただいております。これは補助金であったり、町に対する交付金であったりというものですけれども、この町をどうしていくかというのはやはり地元の方々、これは町役場であったり、議員の皆様であったり、住民の方々だったり、こういった意見をしっかり反映しながら取り組んでくることが大事だと思っております、そういう意味で町としっかり連携をしていくことが大事だと思っております。引き

続き皆様のご指導、ご意見をいただきながら取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（高橋 実君） 7 番、安藤正純君。

○7 番（安藤正純君） せっかくですから、これはお願いを込めて。やはり被災地というのは、全体的に均衡ある発展、これが望ましいと思うのです。富岡の場合には、富岡地区と夜の森地区というのがあって、夜の森地区が帰還困難区域だったから、南と北でちょっと発展が遅れてしまったけれども、やはり自力で何とかしなさいというレベルではないので、そこは国の力をお借りしたい。

それと、もう一点は町村間で勝ち組と負け組ではないけれども、水素工場だったり、町の 1 級の有名な建築士の開発だったり、国際教育だったり、1 つの町に国でどどっとにぎわいに行くようなやり方、そうすると分断されてしまう。大熊、双葉がああいうなかなか発展しづらいところだから、北の端が発展してしまって南が遅れてしまうとかバランス悪くなってしまうので、師田さん、その辺は全体的に物事を見て、そういうビッグプロジェクトというか、国からの補助金が一方に偏るようなことのないように、やはり全体的に見てもらいたい。それをお願いしたいと思います。

○議長（高橋 実君） 副本部長。

○内閣府原子力災害現地対策本部副本部長（師田晃彦君） ありがとうございます。今の国際研究拠点の話もありました。これも県からご提案がなされた状況だと伺っていますので、まだこれからではありますけれども、そういったご意見があることも伺っていますし、あとこれは国際研究拠点も浪江に決まったから浪江だけということではなくて、様々な取組がエリア全体に裨益するような形の取組をしていこうと考えていると聞いてございますので、ご意見しっかり承りながらご期待に沿えるようにやりたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 7 番、安藤正純君。

○7 番（安藤正純君） 浪江に決まったから、何かその一部分を下さいという考えは全く富岡はないので、富岡は富岡独自で浪江に匹敵するぐらいの発展を遂げたいと思っていますので、その後押しをお願いしたい。決して双葉郡で北の端だけが発展して、南は発展しなくてもいいというものではないということを感じ取って帰ってください。

○議長（高橋 実君） では、帰還困難区域の再生に向けた取組についてを終わります。

説明者の入替えのため暫時休議します。

休 議 （午後 3 時 5 4 分）

再 開 （午後 4 時 0 2 分）

○議長（高橋 実君） 再開いたします。

次に、付議事件 4、東日本大震災慰霊碑の建立についての説明を企画課長より求めます。

企画課長。

○企画課長（原田徳仁君） それでは、東日本大震災慰霊碑の建立案について説明させていただきたいと思います。本件につきましては、生活環境課、生涯学習課、企画課の３課を中心に検討した経緯がございますので、私より一括説明させていただき、ご質問等につきましては担当課より答弁させていただきますので、よろしくお願いいたします。着座にて説明させていただきます。

資料に入る前でございますが、これまでの経緯等について若干説明させていただきたいと思います。慰霊碑につきましては、東日本大震災被災地で遺族会などがそれぞれ建立し、震災から10年を迎えた今も再び建立している自治体も見受けられます。当町におきましては、津波の犠牲者や避難中に亡くなられた方々を悼む慰霊碑の設置を第２次復興計画に掲げましたが、策定当時は避難中であつたこと、また一部避難指示解除後においてもＪＲ常磐線富岡駅前周辺の津波被災地域が復旧途上であつたことから継続的な検討にとどまっておりました。このたびＪＲ常磐線東側の道路などはまだ未復旧の状態ではありますが、曲田土地区画整理事業の事業完了や駅前西原線の整備に伴う土地の確保、関係行政区長らの要望などから建立趣旨やその場所などの案がまとまり、また速やかに着手したい考えから今定例会に補正予算として計上いたしましたところでございます。

それでは、資料ナンバー４に基づいて説明させていただきたいと思います。２ページを御覧いただきたいと思います。建立の趣旨といたしましては、東日本大震災及び原発事故により犠牲になられた方々を悼み、自然災害から命を守る教訓を後世に語り継ぐとし、場所は津波到達地点周辺を基本に海が望めること、高台であること、多くの方々が訪れやすい場所であることを基に検討し、停車場岩井戸線と駅前西原線の交差点周辺といたしました。

３ページを御覧いただきたいと思います。刻銘対象者でございますが、今もなお災害関連死の認定が継続していることや、ほか自治体でも苦慮しております住民票異動に伴う全てのご遺族の連絡先の把握がし切れないということもあります。また、ふるさとへの帰還を思いながら亡くなられた方々を悼むことから、刻銘対象者を限定することのない慰霊碑とし、どなたでも手を合わせていただきたいと思いますと考えてございます。設置工事概要につきましては、慰霊碑の設置と敷地の舗装であり、その費用として1,900万円を９月補正に計上いたし、建立予定を令和５年３月11日といたしました。

なお、４ページでございますが、現時点での検討段階のものを提示させていただきました。ご遺族の心情に配慮した格調高いこと、それから宗教色がなく、世の中に広く受け入れられることを念頭に今後具体化を進めてまいります。

次に、５ページの碑文案を御覧いただきたいと思います。碑文案でございますが、被災事実や今を生きる私たちの心中をどなたが見ても理解できるようにと心がけ、哀悼の意と復興、再生の誓いをお示しするものであります。時間の都合上、朗読は省略させていただきたいと思いますので、後ほどご確認いただければと思います。

最後、資料６ページでございますが、東日本大震災の教訓を生かした取組といたしまして、津波浸

水想定情報等の標識設置に現在取り組んでおりますので、慰霊碑建立に併せて紹介させていただきます。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑ございませんか。

3 番、佐藤啓憲君。

○3 番（佐藤啓憲君） この記念碑をつくること自体は私はいいと思うのですが、つくる場所としての選定のところで多くの人が訪れやすい場所であるということで、安全性とか、あとは舗装した後の駐車場、例えばこの交差点のところは信号機とか横断歩道とかもなかったと思うのですが、その辺の検討はされているのかお聞きしたいです。よろしくお願いします。

○議長（高橋 実君） 生活環境課長補佐。

○生活環境課課長補佐兼環境衛生係長（大舘衆司君） ここにつきましては、今現在は信号機がないということでございまして、また石の置き方によっては視距が取れないということもございしますので、そこら辺はこれから設計をしていく中で安全性には配慮して設計をつくっていきたいと考えております。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

8 番、宇佐神幸一君。

○8 番（宇佐神幸一君） 1 点ほど。一応慰霊碑という形に形式が決まりましたけれども、基本的に慰霊碑においては2種類あると思うのですが、俗名というよりも亡くなった方の慰霊碑であれば名前を入れるときと入れないときと、今回は無名なのですか。入れないという形でいいのですよね。

○議長（高橋 実君） 企画課長。

○企画課長（原田徳仁君） 名前は入れないということで進めたいと思っております。

以上でございます。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

6 番、遠藤一善君。

○6 番（遠藤一善君） 最後のページ、これ海拔のやつ出ているところもいいのですが、うちの津波の浸水のハザードマップってそんなにだだっ広くはないので、これをつくるのと同時に何かハザードマップの浸水域もうまくどこかに入れられるといいなと思うのですが、何か知恵を出していただければと思います。

○議長（高橋 実君） 生活環境課長補佐。

○生活環境課課長補佐兼環境衛生係長（大舘衆司君） このところのデザインにつきましては、さらに検討させていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（高橋 実君） 消防交通係長。

○生活環境課消防交通係長兼原子力事故対策係長（鎌田祐輔君） 若干補足をさせていただきます。

今回につきましては、電柱巻き立て形式ということでスペースが限られたもので、浸水域については十分に記載できないものでございますが、こちらの看板の下部にQRコードをつけておりまして、そこからハザードマップを見れるといったような工夫はさせていただきたいと思います。

以上です。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

1 番、堀本典明君。

○1 番（堀本典明君） 私も慰霊碑大賛成なのですが、予算のところで1,900万円ということで、石の値段とか分からないので、その辺がどういうことなのか分からないですけども、予算的にはちょっと大きいかなという感じはしているのですが、その辺り内訳教えていただけますか。

○議長（高橋 実君） 生活環境課長補佐。

○生活環境課課長補佐兼環境衛生係長（大舘衆司君） 石のデザインから設置までの費用が1,400万円、それから舗装分で500万円というような見積りで考えております。

○議長（高橋 実君） 総務課長。

○参事兼総務課長（林 紀夫君） 設置、建立まで地元の方々に場所をご理解いただいて、早急に建立するという方針で、実は予算取りの際には非常に大変失礼ですけども、詳しい見積り、それから詳しい積み上げというところがあった上で予算取りはしておりません。もう間に合わないとならないように、大きな余裕を持ちながらということにしております。どういう石を使うか、どういう形にするか、どの大きさにするかで金額非常に変わってきますということで、想定の中でかなり余裕を持って保険を掛けた予算だとご理解いただければありがたいと思います。

以上です。

○副議長（堀本典明君） 議長。

○議長（高橋 実君） 総務課長、いいとか悪いとかより、つかみ1,900万円をつかんでいるだけで、1,400万円で慰霊碑の分、400平米の舗装で500万円、高いよな。400平米で500万円はどう考えたって。それで、石といっても大体こういう石だとかというのも何にもなくて予算だけつかんで、どういう発注の仕方するのだい。

○副議長（堀本典明君） 総務課長、お願いします。

○参事兼総務課長（林 紀夫君） 石については、ある程度地元の石、地元といっても川内産を使えないかということで石屋に相談をしながら、このぐらいの大きさだとどのぐらいかかるだろう、それから既に慰霊碑を設置した町村ではどの程度費用がかかっているだろうというところを参考にしながら、少し保険を掛けているといったところになります。舗装についても、表現は悪いですけども、黒くするだけであればあの面積400万円も必要はないだろうと思いますけれども、舗装をした際に排水を考えたりということ踏まえると少しこれも保険を掛けておいたほうがいだろうと。そこまで

の具体の図面ができて積み上げてというところの、申し訳ございませんが、時間はなかったので、つかみでもう上がっていると、そうご理解ください。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

7 番、安藤正純君。

○7 番（安藤正純君） 5 ページの、碑文（案）なのですが、こういうものってこの文章を全部入れるのですか。それとも、何とかかんとか、安らかにとかと大きい文章、柔らかい文章を入れるのか、これを全部入れるのか、その辺の考え方を教えてください。

○議長（高橋 実君） 企画課長。

○企画課長（原田徳仁君） こちらの部分については、全部入れる予定でございます。タイトルが東日本大震災慰霊之碑という形になって、この事実という部分と我々が伝える部分については全て記載したいと考えてございます。

○議長（高橋 実君） 4 番、渡辺正道君。

○4 番（渡辺正道君） 話を聞いているうちにますますちょっと頭がこんがらがってきたのですが、4 ページのいわゆるブルーの部分が駐車場になるのでしょうか。それで、いわゆるピンクの部分が慰霊碑を建てる場所なののでしょうか。これ駐車場とかいろいろ考えると有効利用するのであれば北向きに建てるであるとかしたほうがいいのかと思うのですが、ただ下に見るとろうそく岩と富岡駅を望むということで北東の方向に向けて設置ということで、かなり場所を取るのだけれども、あえて富岡駅とろうそく岩を向ける方向で場所をこれだけ取る必要性ってあるのでしょうか。

○議長（高橋 実君） 生活環境課長補佐。

○生活環境課課長補佐兼環境衛生係長（大館衆司君） まだ現時点でその細かいところというか、デザインとか、それから設計というのがまだしっかり固まっているところではないところなので、ちょっとこれは一つの案という形にはなるので、多少ここのずらしとかというのは当然考えるものだとは考えております。

○議長（高橋 実君） 4 番、渡辺正道君。

○4 番（渡辺正道君） 今後まだまだ検討の余地があるということで理解しました。ありがとうございます。

○副議長（堀本典明君） 議長。

○議長（高橋 実君） 企画課長、ろうそく岩に向けて、石碑、南側、右手、海に向かって、何人行方不明者、死亡者いる。北側に何ぼいる。ここら辺も遺族の気持ち逆なでにならないようお願いしておくわ。そこら辺は調べて。南側やっぱり一番怖い人もいるから、何で北向きなのだとならないかと思って心配したから、今一瞬、だからそこら辺もよく調べて。ろうそく岩に人いるわけでないのだし、ちょこっとそこら辺も考えてみて。南と北とどっち側が行方不明者が多い、津波で死亡した人が多いとか、真東で今の建てる位置から海に真っすぐ向けたほうがこういう面では騒ぎが少ないと思う。

○副議長（堀本典明君） 企画課長。

○企画課長（原田徳仁君） ご指導ありがとうございます。工事等については生活環境課で持っていますが、今ほどのような助言いただきましたので、再度設計には組み立てていきたいと思っております。ありがとうございます。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） これをもって質疑を終了いたします。

以上をもちまして、付議事件４、東日本大震災慰霊碑の建立についてを終わります。

説明者の入替えのため暫時休議します。

休 議 （午後 ４時 １ ９ 分）

再 開 （午後 ４時 ２ ０ 分）

○議長（高橋 実君） 再開いたします。

慣例で会議時間を午後４時３０分にしておりますが、付議事件が残っておりますので、会議時間を延長いたします。

次に、付議事件５、放課後児童クラブ施設整備事業についての説明を教育総務課長より求めます。

教育総務課長。

○教育総務課長（猪狩直恵君） 教育総務課より富岡町放課後児童クラブ施設整備事業についてご説明させていただきます。

６月に施設の整備構想をご報告させていただきましたが、今回中間報告となる基本設計案をまとめましたので、施設全容の配置図、平面図及びイメージパース、完成予想図で示させていただきました。富岡幼稚園跡地の敷地面積約４,６９４平米、延べ床面積約５０７平米、構造は木造を予定しております。整備基本方針として掲げておりました５項目は、保護者等を委員に迎えた施設整備検討委員会において取りまとめられた意見でありましたので、この考え方を基本に設計案を作成しております。１つ目が、自ら考え、自由な発想で遊び、生活できること。２つ目が、年齢が異なるだけでなく、配慮が必要な子供も分け隔てなく過ごせること。３つ目が、地域との交流や自然と触れ合う体験など、多様な経験ができること。４つ目が、安心できる空間であること。５つ目が、近隣の公共施設と相互補完できることの５項目でありました。本事業の実施に当たっては、児童福祉法や放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例などの関係法令を遵守してまいります。

本日は、各教室の想定される使い方などをご説明させていただきたいと思っております。また、今後の事業の進め方ではありますが、議員皆様方からのご意見をいただきながら、この基本設計案を精査し、年内には実施設計まで取りまとめてまいりたく考えております。

説明は課長補佐より行いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（高橋 実君） 課長補佐。

○教育総務課課長補佐（松本真樹君） では、説明をさせていただきたいと思いますが、着座にて報告させていただきます。

7月6日にプロポーザルを行い、受託者を永山建築設計事務所に決定し、現在設計業務を進めております。本日は基本的な平面図を議員の皆様にお示しさせていただき、ご意見を頂戴したいものと考えております。本日は資料5-1で外観のイメージ、資料5-2で配置図、資料5-3で平面図を準備させていただきました。

まず、資料5-1、外観イメージを御覧ください。木造平屋建てになっておりますが、あくまでもイメージでございますが、子供が安心して過ごせるよう温かみを感じられるような建物をイメージしております。

続きまして、資料5-2の配置図を御覧ください。現在の富岡小中学校のすぐ西の旧富岡幼稚園の跡地に整備することとしております。駐車場は既存の駐車場を活用することとし、敷地内にはグラウンド、土いじりができる簡易的な畑を考えております。グラウンドの敷地は1,000平米を超えており、十分に子供が運動、活動できる面積は確保できているものと考えております。また、子供の飛び出し防止、不審者の対策のため、敷地には高さ180センチメートルのフェンスを全面的に設置することとしております。加えて、フェンスは敷地の境だけでなく、外部の侵入また子供の飛び出し防止を兼ねて、グラウンドと駐車場との境や門扉から建物に進む箇所にもフェンスを設置したいと考えております。

続きまして、資料5-3、室内の平面図をお開きください。面積は現在のところ500平米程度で、507.21平米を考えております。中央には玄関があり、玄関を挟んで左側、西側になりますが、子供たちが動き回る動の空間、右側を静かに学習するなどの静の空間として区別した設計としております。まず、左側、西側から説明させていただきます。子供たちがメインで過ごす児童クラブを定員40人と想定し、2部屋を雨天時の室内遊びとクリスマス会、七夕などイベントを行うためのホール隣に多目的ホールを設置しております。これらの部屋は、構造、耐震の都合で変更になる可能性もありますが、パーティションや引き戸などで柔軟に使えるよう想定しており、天井高を高めにする予定としております。北側には男女別のトイレとみんなのトイレを設置し、トイレの両脇に倉庫を配置しております。倉庫につきましては、季節の飾り物や学習用品などを分けて収納することとし、2つと考えております。続きまして、玄関となる中央部につきましては、室内の風の流れや採光を考慮し、北側に中庭を設け、談話などくつろげるスペースを確保しております。続きまして、右側の東側の静の空間については、玄関を挟み、職員用の事務室を設置し、事務室の中には体調が悪い子供が利用する静養室やおやつなどを保管する湯沸器室や食品庫並びに保護者の相談などに対応できるよう相談コーナーを設けております。そして、右端には子ども教室を2部屋用意しており、一番右端の子ども教室1は落ち着いた学習できる部屋となっており、ICT学習にも対応できるような教室を考えております。子ども

教室２は、不登校や特性のある子供がなかなか活動を集団でできないというようなことも考えられますので、そのための落ち着いて過ごせる空間として設置を予定しております。こちらの壁もパーティションを設置し、部屋の行き来を柔軟にできるように考えております。また、静の空間の北側でございますが、職員等の更衣室兼倉庫と、粗相をした子に対応した洗濯室、そして子ども教室に通う子供と職員兼用のトイレを配置しております。

説明は以上となりますが、議員の皆様からご意見を頂戴し、よりよい児童クラブをつくっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上でございます。

○議長（高橋 実君） これより質疑を行います。質疑ございませんか。

6 番、遠藤一善君。

○6 番（遠藤一善君） まず、大枠は部屋の使い方とか、そういうのはいいのですけれども、1 点だけ。このトイレ、最近はいろんな考え方として男子トイレ、女子トイレそれぞれに、いわゆるみんなの多目的のトイレを造るというのが主流になってきているのですけれども、確かに子供の施設だからこういう考えもあろうかとは思うのですけれども、そういうところの考え方というのは子供に対する教育のところもあるので、できれば最新の考え方の配置をしていただけると非常にありがたいというのがありますが1 点。

それから、外観なのですけれども、先ほどの森林除染とか、そういうことでもないのですけれども、富岡の公共施設って結構木というか、もともと富岡町森林が多くて、富岡はそういうようなところでいきましょうということで、震災前相当の長い年月そういうような形で木を活用した建物の施設が多かったのですけれども、これ見ると普通のその辺で売っている窯業系のサイディングなのですけれども、やっぱりせっきくこれだけ大きな建物を造るので、富岡町自体がどういうふうな町にしたいのか、どういうものにしたいのかというのを建築できちっと表現できるように、ただその辺に売っている既製品のをここへばたばたと張って、そういう子供を育てたいのか、そういうところを表すような外観というか、外観の仕様にしてほしいなと感じたのですけれども、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 松本補佐。

○教育総務課課長補佐（松本真樹君） 大変ありがとうございます。まず、トイレの件につきましては最新の考え方ということで、私どもはこれ以上のものがちょっと考えられなかったので、設計事務所と相談させていただきながら、最新のトイレの子供用のというところで検討してまいりたいと考えておりますので、お願いいたします。

また、外観につきまして、基本的には温かみがあって子供たちが安心できるというところでの発注としておりました。議員のご指摘を受けて、町としてどのような考え方かという、木を前面に出したほうがいいのかということも含めて再度また協議してまいりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（高橋 実君） 6 番、遠藤一善君。

○6 番（遠藤一善君） トイレは勘違いしないでください。子供用とか大人用ではなくて、男子トイレには男子トイレ用の多目的トイレ、女子トイレには女子用の多目的トイレ、こうしていきましょうというのが今基本になっているので、既存のところを無理無理使うときにはしようがないですけども、新しく造るのですから、今一番新しい考え方でやってもらったほうがいいかなということですので、設計事務所に聞けばすぐ分かると思います。そういう要望出さなかったのも、そう出てこなかったのだと思う。

○議長（高橋 実君） 松本補佐。

○教育総務課課長補佐（松本真樹君） 大変説明が不十分で申し訳ございませんでした。議員からいただいたことをきちんと設計事務所に伝え、きちんと反映できるように考えていきます。ありがとうございました。

○議長（高橋 実君） そのほかありませんか。

2 番、佐藤教宏君。

○2 番（佐藤教宏君） 私からは、子ども教室につきまして、ICT学習もできるということで、こういった学習ができるというのは富岡町に子育て世代に来ていただくためにはこういったものも必要かと思いますが、もうちょっと児童クラブでもそういった学習もできるような環境にしていきたいと思っているのが1つ。

どこにでもあるような児童クラブ、ただ預かるだけというような、そういった施設にはしないでいただきたいなということで前から申し上げておりましたが、この中で図書室のような図書がたくさんあるような環境、そういったものもぜひつくっていただきたいなというところで、そういったところで学校教育とは一線を画すものではありませんが、私も小学校の子供を持っていますので、ただ預かってもらうだけではなく、特に富岡町、塾等も何もないので、こういったところで少しパソコンであったり、英会話であったり、そういった学習が少しでも希望される子供たちが、そして希望される親御さんたちがいるのであれば、そういった塾的なこともできるような、何か技術を得られるような環境を多くこの児童クラブにはそういった環境にしていきたいなと思っているところですが、まずパソコンはどこでも使えるような環境、そして図書がたくさんある環境、そういったものをつくっていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 松本補佐。

○教育総務課課長補佐（松本真樹君） ありがとうございます。まず、児童クラブ室につきましては、いろんなお子様がいらっしゃいます。勉強をしたくない子とか、動きたい子、学習したい子、いろんな様々なお子様がいらっしゃいます。そういうような保護者のご希望もあると思いますので、児童クラブの中で多目的に使えるような形にしたいとは思っていますし、勉強ということであれば子ども教室に移動してそこでやるとか、いろんな考え方をしたいと考えています。それで、児童クラブ室

でも例えばパソコンが使える環境というのはもちろん整備してまいりたいと考えておりますので、児童クラブ室では全部勉強しますよというところになると行きづらいとか、いづらいうちもいらっしやると思いますので、そこは特性を考えて多目的に使えるような形で児童クラブは考えていきたいと考えております。

また、図書室というところにつきましては図書コーナーということで考えていきたいと考えております。部屋の中に準備するのか、例えば廊下の一部、あと多目的室とか、いろんなところの設置が検討として挙げられていますが、まだこちらに図面に反映できておりませんでした。大変申し訳ございませんでした。議員おっしゃるとおり、図書コーナーはきちんと整備してまいりたいと考えております。ありがとうございました。

○議長（高橋 実君） 2番、佐藤教宏君。

○2番（佐藤教宏君） ありがとうございます。全てを勉強するスペースにしろということではなくて、ぜひ富岡町の特色を出す、もしくは塾がなくて困っている親御さんがいらっしやれば、そういった方たちの手助けになるというか、そういったところも増やしていったほうが特色のある児童クラブになるのではないかなと思ひまして提案させていただきました。基本的には子供たちは遊びたいと思っておりますので、そういったところも感じてはおりますけれども、ただ遊ばせているだけ、自主性を育てるということで子供たちに全て任せてしまつて何も得られないものにするよりは、親御さんの希望も伺いながら学校教育とは別な学習、そういったものに触れられる施設にしていきたいと思いますと思ひまして、今回提案させていただいたところなのですけれども、できればそういったほかにはない児童クラブにしていきたいと思いますという思いがありますので、ぜひほかの施設等も研修等行かれていくということなのですけれども、そういったのも現在の富岡町に合ったそういった児童クラブにしていきたいと思いますと思ひますが、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 松本補佐。

○教育総務課課長補佐（松本真樹君） ありがとうございます。なかなか富岡町、これだ、目玉だというような形でこの児童クラブというのをそこまで具体的なものというところはなかなか提示できなく、大変申し訳ございませんでした。ただ、今子供たちの状況を勘案しながら、保護者の皆様が安心して過ごせる状況、あと先ほど学習の問題であったり、なかなかこの地域で否定的というか、マイナスの部分プラスに変えられるような形の室内にしていきたいと考えておりますので、いろいろと議員からもご意見頂戴したいと思いますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

○議長（高橋 実君） ほかにございませんか。

5番、高野匠美君。

○5番（高野匠美君） これで見てもちょっと感じたのは、動の空間に子供たちが手洗いとか、そういう場がちょっと少ないのではないかという感じもしたし、せっかく花壇あるのに外にももう一つあって、子供たちが率先して花壇で何か花とか植えたらばお水やるとか、そういうのもいいのかなと思つ

たし、部屋が汚れたら自分で率先して掃除するとか、基本的なそういうことも教えるのも大切なのではないかなと思ひまして、何か動のほうにはそういう水簡単に使える、自分の服が汚れたら自分ちょっとこやるとか、そういう場がないなと感じたのですけれども、その辺をよろしく願ひします。

○議長（高橋 実君） 松本補佐。

○教育総務課課長補佐（松本真樹君） 大変ありがとうございました。手洗い場につきましては、児童クラブ室の中にちょっと入れるか、動の空間のところに手洗いカウンターがちょっとないということころは確かに議員ご指摘のとおりでございます。こちらの手洗い場を設けられるような形で考えてみたいと思っております。また、外につきましては玄関のところに手洗い場を設置しているということで、ここも1か所では足りないというご指摘ありがとうございました。こどもファームは平面図のところに、西側に考えていまして、そこに水をやるにはどうするのだという形になったときにここから子供たちに運ばせるのかというのは非常に酷な話でございますので、手洗い場の場所も再度検討させていただいて、動の空間のグラウンドに出せるような形で何か所か考えてみたいと思ひますので、よろしく願ひします。大変ありがとうございました。

○議長（高橋 実君） ほかに。

8番、宇佐神幸一君。

○8番（宇佐神幸一君） 平面図見させていただいて、あと議員の方のお話を聞いた中によると、今回一応勉強したいという子たちも来るし、また自由な発想で学校生活というか、学童を生かしたいという子も来るということになると、ホールに向かってどっちかといえば子ども教室1はむしろ勉強したり静かなと。逆に児童クラブの教室1、2についてはある程度いろんな活動の中においての活用するのかなという場合、やっぱり勉強したい子はそれなりの静というものを保てるような空間にするには廊下がもうフラットになっているので、何らかの形でそこを分けるというのは難しいと思ひますが、そういうものをある程度分けるぐらいな形のものも必要かと思ひますので、どうでしょうか。その1点だけ。

○議長（高橋 実君） 松本補佐。

○教育総務課課長補佐（松本真樹君） ご指摘ありがとうございました。児童クラブ室の騒ぎの音量が子ども教室の部屋のところに届くかどうか、もし届いた場合にはそこで遮断するようなものがあつたほうがよいのではないかなというようなご質問として受け止めさせていただきました。距離的なものは結構距離があるので、大丈夫かなとは事務方では思っていたのですけれども、設計事務所と相談させていただいて、これでは音が漏れるとか、そういうことであればそういう静粛性を考えた素材であったり、また何かしら物を、板というか、壁を入れたほうがいいのかというのを再度検討させていただきたいと思ひます。ありがとうございました。

〔「いいですか、もう一点」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） どうぞ。

○8番（宇佐神幸一君） ありがとうございます。それとともに、子供というのはどこに動くか分からない状況下、また今の一般的な子供さんというのはじっとしている子というのは少なく、結構動いてしまったりする場合、勉強したいという子供たちに影響を与えてしまうとか、そういう状況も考えられると思うので、そういうのを加味しながら教室というのをある程度考えていただきたいと思うのですが、どうでしょうか。

○議長（高橋 実君） 補佐。

○教育総務課課長補佐（松本真樹君） ありがとうございます。お子さん非常に多様性がありますので、まずソフト面というか、運用の面で先生方にはしっかりとルールづくりをきちんとしていただきたいと考えております。どうしても動き回って対応できないとか、そういうような形であれば、子ども教室2で落ち着かせてみせたりというような形とか、いろいろ居室ということではなくて、ソフト面でルール面をしっかりとやっていきたいと考えておりますので、お願いいたします。

○議長（高橋 実君） ほかに。

1番、堀本典明君。

○1番（堀本典明君） 私、2番議員さんとは逆で、多目的ホールちっちゃいのではないかなとちょっと思ってしまったのですけれども、雨の日、雪の日ぐらいかなとは思っているのですけれども、中で遊びたいという子もいると思うのです。上限40人ということなので、40人全員が遊ぶことはないでしょうけれども、児童クラブ室2つに比べるとちょっと小さめなので、例えば児童クラブ室も中遊び、テーブルとか片づければ使えますよなのか、その辺のちょっと考え方を教えていただきたいのと、あといろんな施設最近おつくりになるときに必ず倉庫ちっちゃかったねというようなお話出るのです。大き過ぎてもいいかという話もありますけれども、少し余裕を持って、まだ建築スペースあるかと思うので、その辺りちょっとご検討いただいて、ちょっと広めに取っていたほうが確かに自由度が高くなると思うので、その辺りの意見なのですが、いかがでしょうか。

○議長（高橋 実君） 松本補佐。

○教育総務課課長補佐（松本真樹君） ありがとうございます。まず、多目的ホールに関しましては、事務局内部でもちょっとやっぱり狭いかなとは思っています。ただ、500平米程度というところで考えておりましたので、その部分は金額の面もあるとは思っているのですけれども、多目的ホールは議員からご指摘、ありがたいお言葉をいただきましたので、増やしたいと考えております。また、児童クラブ室の机とか、そちらは基本的には置きっ放しというか、置いているような感じで考えているのですけれども、ただ倉庫もやっぱり足りないとは考えておりますので、倉庫も500平米から超えた形で広めに造って、こちらご意見いただいたので広めで考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

○副議長（堀本典明君） 議長、どうぞ。

○議長（高橋 実君） これ5-2、5-3の平面図2枚見ての話なのだけれども、まず子供らがけがした、何したといったときに救急車どこにくっつけるだか。玄関の真っ正面は不審者対応で1.8メ

ートルのフェンスで入られないし、そうするとみんな東側の道路から2か所しか救急車は入られないのだ。そうすると、1か所目の南側、伸縮門扉あるところ、建物側面は出入り口ないのだ。玄関からアプローチ通ってくるしか。あと、今度北側のところも伸縮門扉のスロープ12分の1のやつで入ってきて、出入り口まともなのはないのだ。そこら辺どうなっているのかなというやつと、利用するのは子供らでしょう。雨の日、雪の日に外で300坪もある、1,000平米もあるところで遊んで、場合によっては泥だらけになったときに着替えるにしたって少しは新しい建物造るのだから、男女のシャワー室は要るのではないのかなと思うのだけれども、バスタブまでは要らなくても。そこら辺よく永山建築設計事務所、立派な会社なのだろうから、そこと打合せよくしてみたら。

○副議長（堀本典明君） 課長補佐、どうぞ。

○教育総務課課長補佐（松本真樹君） 大変ありがとうございました。救急車の件につきましては、すみません、全く考えておりませんでした。申し訳ございません。こちら、業者ときちんと打合せさせていただきたいと思います。

また、シャワー室の件につきましては、快適なシャワー室は部屋は1か所しかちょっと準備しておりませんでした。こちらも男女というところで再度詰めていきたいと思います。大変思慮が浅くて申し訳ございませんでした。ありがとうございました。

○副議長（堀本典明君） 議長。

○議長（高橋 実君） それと教育長、この建物に対して東側に学校の間に道路あるところ、既存可動式バリカー、ここはすぐ外される状態かい。子供らがけがして救急先来ても北に行くのが本流だろうから、一々泡食ってここ外して出入りしていたのではうまくないと思うのだけれども、そこら辺もどんなふうにするのだから、管理考えておいてもらいたい。

○副議長（堀本典明君） 教育長。

○教育長（岩崎秀一君） では、私からお答えいたします。

北側にありますこのバリカーなのですけれども、ここを調べてみたらこのバリカーのところから学校入り口のところまでの直線道路、これ全て学校の管理の土地であるということで学校敷地の土地であるということが分かりました。今現在は、ここに車止めを4本置いてあります。それで、何かあった場合には車止めをすぐずっと取って、車が出入りできるようにはしてあります。ただ、便宜上ほかの車が入ってきてほしくないの、車止めは4つもいつもあって、閉めて入ってこれない状態になっておりますので、あそこに行って救急車が来るとなった場合には、走っていけば車止めをすぐずっと抜いて、北側から救急車が来れるという体制だけは取っているということになります。

補足でした。以上です。

○副議長（堀本典明君） 議長。

○議長（高橋 実君） すっとできるように職員教育しておいてください。石がかんでいて女性の手では抜けなかった、何しなかったということ絶対ないようによろしくお願いします。答弁はい

いです。○教育長（岩崎秀一君） 分かりました。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） これをもって質疑を終了いたします。

以上をもちまして付議事件５、放課後児童クラブ施設整備事業についてを終わります。

次に、その他に入ります。執行部から何かございますか。

企画課長。

○企画課長（原田徳仁君） 本日富岡町災害復興計画（第２次）後期の令和３年度事業評価を配付させていただきました。これは、昨年度に引き続きまして、後期計画２年目の取組を重点施策ごとに評価したものであります。さきの総合開発審議会でもご意見等をいただきました。今後ホームページ等で広くお知らせするに当たりまして、先に議会に報告させていただきましたので、後ほど御覧いただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（高橋 実君） ほかにございませんか。

議会事務局長。

○事務局長（小林元一君） 議会事務局よりご報告を申し上げます。

今定例会におきますマスクの着用についてでございますが、今朝ほど議会運営委員会を開かさせていただきました。今回のオミクロン株につきましては感染力が強いということで、今定例会におきましてコロナのリスクをなるべく下げないように、今までパネルの前での発言につきましてはマスクを外してやっていたところでございますが、今回につきましては大変申し訳ございませんが、パネルの前の発言においてもマスク着用をお願いしたいと思いますので、ご協力、ご理解のほどよろしくお願いいたします。ですから、今回９月定例会におきまして全てマスク着用をお願いいたします。

以上でございます。

○議長（高橋 実君） ほかにございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○議長（高橋 実君） ないということですので、以上をもちまして富岡町議会全員協議会を閉会いたします。

閉 会 （午後 ４時５２分）